

マルチチャンネル インテグレートアンプ

取扱説明書

接続と準備をする

再生する

メニュー／その他の機能

困ったときは／仕様

お買い上げいただきありがとうございます。



警告

電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

「安全のために」(このページと57～59ページ)の注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。「使用上のご注意」(55ページ)もあわせてお読みください。

定期的に点検する

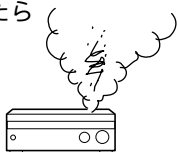
1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、電源プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーの相談窓口へ修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、
煙が出たら



- ❶ 電源を切る
- ❷ 電源プラグをコンセントから抜く
- ❸ お買い上げ店またはソニーの相談窓口へ修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなどの人身事故の原因となります。



注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く

目次

同梱品一覧	4
本機の特長	5
各部の名前と働き	6

接続と準備をする

1: スピーカーシステムを決める	12
2: スピーカーを設置／接続する	15
3: テレビを接続する	23
4: AV機器を接続する	28
5: FMアンテナを接続する	30
6: 電源を入れてかんたん設定 (Easy Setup)を行う	30
7: HDMI設定をする	34

再生する

接続したテレビやAV機器の音声や 映像を再生する	35
BLUETOOTH機器の音声を再生する	36
音響効果を選ぶ	38

メニュー／その他の機能

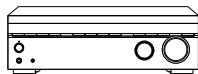
テレビ画面上でメニューを操作する ...	43
スピーカーパターンを選ぶ	44
フロントスピーカーを切り替える	46
お買い上げ時の設定に戻す	47
消費電力を抑える	47

困ったときは／仕様

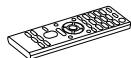
困ったときは	48
使用上のご注意	55
安全のために	57
主な仕様	60
商標について	61
BLUETOOTH無線技術について	62
保証書とアフターサービス	63
再生対応フォーマット	64
索引	65

同梱品一覧

- 本機 (1)



- リモコン (1)



- 単4形マンガン乾電池 (2)



- FMアンテナ線 (1)



- 測定用マイク (1)



- スタートガイド (1)





5.1.2チャンネルのスピーカーシステムの接続、初期設定、音を聞くまでを説明しています。

- 取扱説明書 (本書) (1)



本機を使うために必要な接続、初期設定および基本的な機能の操作について説明しています。

本機の説明書について

- イラストは細かい部分を省いて描いていることがあります。そのため実際の製品とは多少異なることがあります。
- 本機の説明書では主にリモコンによる操作を説明しています。本体にも同じ名称や類似の名称のボタンやつまみがある場合は、本体でも操作できます。
- 本機の説明書ではテレビ画面上の表示は「」、表示窓の表示は「」を付けて表します。

応用的な機能と操作はヘルプガイド (Web取扱説明書) で説明しています

パソコンはもちろん、スマートフォンやタブレットからもご覧いただけます。

下記のURLを入力するか、QRコード読み取り機能を使ってアクセスしてください。



<http://rd1.sony.net/help/ha/strdh79/ja/>

本機の特長

オブジェクトベースの最新音声フォーマットに対応

ドルビー TrueHD、DTS-HD Master Audio、およびオブジェクトベースの音声フォーマット (Dolby Atmos、DTS:X) に対応しています (HDMI接続の場合のみ)。360度全方向から包まれるようなサラウンド音声を楽しめます。

高画質な4K映像フォーマットに対応*

- HDCP 2.2およびDolby Vision、HDR10、Hybrid Log-Gamma対応により、高画質な映像を楽しめます (23ページ)。

* 視聴する信号によっては、HDMI信号フォーマットの設定変更が必要です。

視聴環境を理想的なサラウンド空間に近づける自動音場補正機能(アドバンスド D.C.A.C.)を搭載

- 付属の測定用モノラルマイクを用いてスピーカーの距離、レベル、周波数特性などを測定し、視聴環境に合わせて補正します (31ページ)。
- 各スピーカーの位相特性を合わせるオートマッチック・フェーズ・マッチング(A.P.M.)機能により、つながりの良いサラウンド音声を体感できます。

リアスピーカーを置けない環境でも仮想サラウンド音声を実現(フロントサラウンド)

2本のフロントスピーカーのみで5.1チャンネル相当のサラウンド効果を楽しめます (22ページ)。

BLUETOOTH®機能を搭載

- ウォークマン®やスマートフォン、タブレットなどとBLUETOOTH接続して、本機で音楽コンテンツをワイヤレス再生できます (36ページ)。
- 本機がスタンバイモードのときでも、ペアリングされているBLUETOOTH機器から本機の電源をオンにできます。操作について詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

好みの音場を選択可能(サウンドフィールド)

スピーカー接続や入力音源に合わせて、様々なサウンドフィールド (2chステレオ、ダイレクト、Auto Format Decodingなど) を選べます (38ページ)。

eARC (Enhanced Audio Return Channel)とARC (Audio Return Channel)に対応したHDMI端子を搭載

HDMIケーブル1本で本機からテレビの音声を出力できます (24、25、26ページ)。

eARCは、HDMI 2.1で規格化された新機能です。

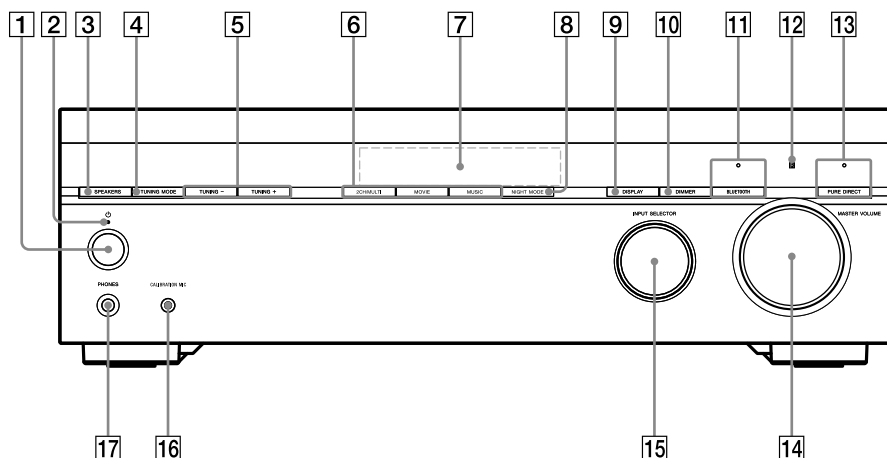
eARCに対応したテレビと本機をつなぐことにより、従来のARCで対応していたオーディオフォーマットに加え、ARCでは伝送できなかったDolby Atmos - Dolby TrueHDやDTS:XなどのオブジェクトオーディオやマルチチャンネルLPCMを楽しむことができます。

フロントスピーカーのバイアンプ接続に対応

お使いのフロントスピーカーが高域(ツイーター)用と低域(ウーファー)用それぞれの入力端子を備えている場合は、バイアンプ接続を行うことにより高音質の再生を楽しめます (21ページ)。

各部の名前と働き

本体前面



1 電源

本体の電源をオンまたはスタンバイ状態にします。

2 電源表示ランプ

- **緑色**：本機の電源が入っています。
- **赤色**：本機がスタンバイ状態で、以下のいずれかの設定になっています。
 - － 「CTRL.HDMI」を「CTRL ON」に設定している。
 - － 「BT STBY」を「STBY ON」に設定している。*
 - － 「STBY.THRU」を「ON」または「AUTO」に設定している。
- **消灯**：本機がスタンバイ状態で：
 - － 「CTRL.HDMI」を「CTRL OFF」に設定している。
 - － 「BT STBY」を「STBY OFF」に設定している。
 - － 「STBY.THRU」を「OFF」に設定している。

* 機器が本機とペアリングされていて「BT POWER」が「BT ON」に設定されているときのみ、ランプが赤く点灯します。機器がペアリングされていない、もしくは「BT POWER」が「BT OFF」に設定されているときは、ランプは点灯しません。

3 SPEAKERS (46ページ)

スピーカーシステムを切り替えます。

ご注意

「OFF SPEAKERS」を選ぶと、スピーカーからは音声が出されません。音声を出力するときは「OFF SPEAKERS」以外の設定を選んでください。

4 TUNING MODE

自動チューニングまたはプリセットチューニングモードを選びます。

5 TUNING +/-

FM放送局をスキャンします。またはプリセット放送局、チャンネルを選びます。

6 2CH/MULTI、MOVIE、MUSIC (38ページ)

7 表示窓 (8ページ)

8 NIGHT MODE

ナイトモード機能を有効にすると、小さな音量でも映画館のような環境を作り出します。

ご注意

- 以下の場合、ナイトモード機能は働きません。
 - [Pure Direct]を[On]に設定しているとき。
 - PHONES端子にヘッドホンを接続しているとき。
 - [Direct]が使われていてアナログ入力を選ばれているとき。
- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

9 DISPLAY

情報を表示窓に表示します。

10 DIMMER

表示窓の明るさを調節します。

11 BLUETOOTH

本機の入力を[BT]に切り替え、前回つないだ機器に自動的につながります。

本機にペアリング情報がない場合は、本機がペアリングモードになります。

本機がBLUETOOTH機器に接続されている場合は、BLUETOOTH機器の接続が解除されます。

BLUETOOTH表示ランプ (36ページ)

12 リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。

13 PURE DIRECT

ピュアダイレクト機能を有効にすると、すべての入力で原音により忠実な音を楽しめます。ピュアダイレクト機能を選んでいるときは、ボタンの上のランプが点灯します。

ご注意

ピュアダイレクト機能が選ばれているときは、[Calibration Type]、[Night Mode]、[Equalizer]、「A.P.M.」および「D.RANGE」は働きません。

14 MASTER VOLUMEつまみ (35ページ)

15 INPUT SELECTORつまみ

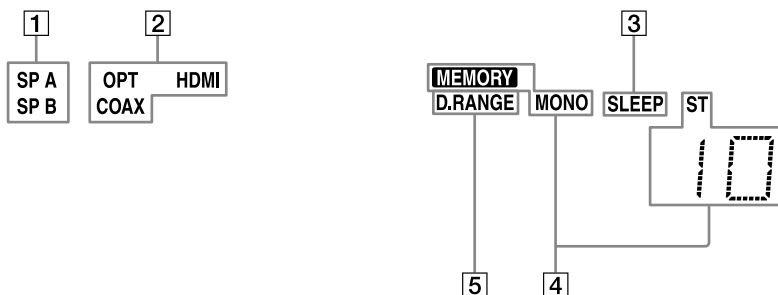
使いたい機器を接続した入力チャンネルを選びます。

16 CALIBRATION MIC端子 (32ページ)

17 PHONES端子

ヘッドホンをつなぎます。

表示窓上のインジケーター



1 スピーカーシステム表示 (46ページ)

2 入力表示

現在の入力を表示します。

OPT

OPTICAL端子からデジタル信号が入力されているときに点灯します。

COAX

COAXIAL端子からデジタル信号が入力されているときに点灯します。

HDMI

選択した機器からのデジタル信号が、HDMI端子から入力されているときに点灯します。

3 SLEEP

スリープタイマーが働いているときに点灯します。

4 受信表示

ラジオを受信しているときに点灯します。

MEMORY

プリセットメモリーなどのメモリー機能が働いています。

MONO

モノラル放送

ST

FMステレオ放送

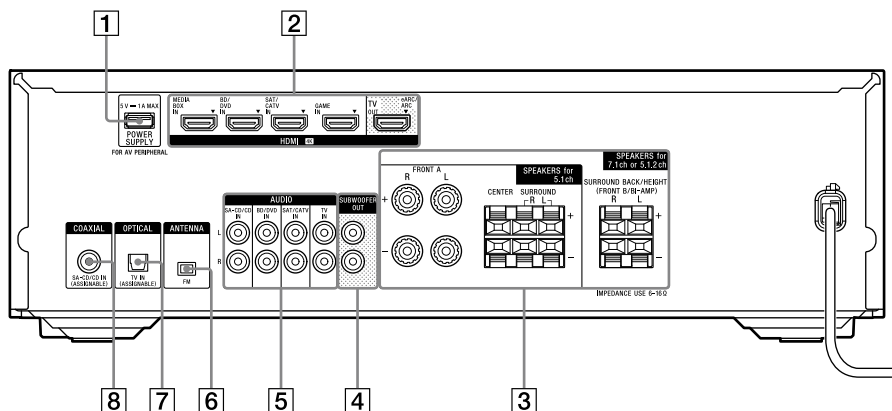
10

プリセット放送局番号(選んだプリセット放送局によって、番号が切り替わります。)

5 D.RANGE

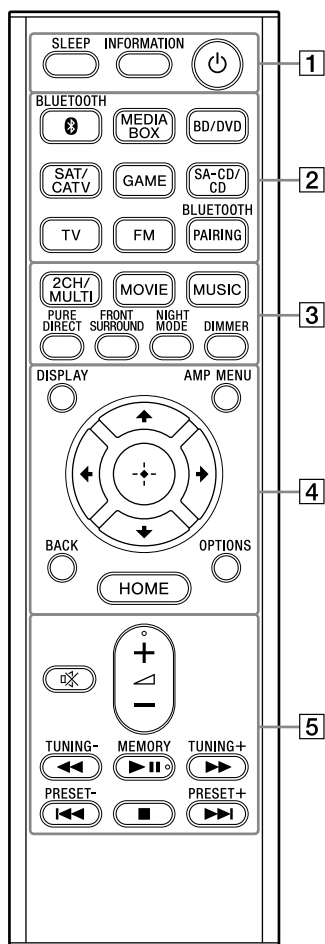
ダイナミックレンジ調整が働いているときに点灯します。

本体後面



- 1** POWER SUPPLY (FOR AV PERIPHERAL) ポート
AV周辺機器用の電源としてのみ、接続することができます。
- 2** HDMI IN/OUT端子 (23、24、25、26、27、28ページ)
本機のHDMI IN端子およびHDMI OUT端子はすべてHDCP 2.2に対応しています。HDCP 2.2は、4K映画などの高精細コンテンツをより強固に保護するために策定された、最新の著作権保護技術です。
- 3** SPEAKERS端子 (15、16、17、18、19、20、21、22ページ)
- 4** SUBWOOFER OUT端子 (16、17、18、19、20、21、22ページ)
- 5** AUDIO IN端子 (27、29ページ)
- 6** FM ANTENNA端子 (30ページ)
- 7** OPTICAL IN端子 (25、27ページ)
- 8** COAXIAL IN端子 (29ページ)

リモコン



1 電源 (31ページ)

本体の電源をオンまたはスタンバイ状態にします。

INFORMATION

音声フォーマットなどの情報をテレビ画面に表示します。

SLEEP

指定した時間に自動的に電源が切れるよう設定できます。

2 入力切り替え用ボタン

BLUETOOTH、MEDIA BOX、BD/DVD、SAT/CATV、GAME、SA-CD/CD、TV、FM

使いたい機器を接続した入力チャンネルを選びます。いずれかの入力切り替え用ボタンを押すと、本体の電源が入ります。

ご注意

「<BT>」メニューで「BT POWER」が「BT ON」に設定されているときは、BLUETOOTHを押すと本体の電源がオンになります。

BLUETOOTH PAIRING (36ページ)

本機の入力を[BT]に切り替え、ペアリングモードにします。

3 2CH/MULTI、MOVIE、MUSIC (38ページ)

お好みの音場(サウンドフィールド)を選びます。

PURE DIRECT

ピュアダイレクト機能を有効にすると、すべての入力で原音により忠実な音を楽しめます。

ご注意

ピュアダイレクト機能が選ばれているときは、[Calibration Type]、[Night Mode]、[Equalizer]、「A.P.M.」および「D.RANGE」は働きません。

FRONT SURROUND

フロントサラウンド機能を有効にすると、2つのフロントスピーカーだけで映画館のようなサラウンドサウンドを楽しめます。

NIGHT MODE

ナイトモード機能を有効にすると、小さな音量でも映画館のような環境を作り出します。

ご注意

- 以下の場合、ナイトモード機能は働きません。
 - [Pure Direct]を[On]に設定しているとき。
 - PHONES端子にヘッドホンを接続しているとき。
 - [Direct]が使われていてアナログ入力選ばれているとき。

- 音声フォーマットによっては、入力信号の本来のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生することがあります。

DIMMER

表示窓の明るさを調節します。

4 DISPLAY

情報を表示窓に表示します。

AMP MENU

表示窓に操作メニューを表示します。

⊕ (決定)、↕ / ↗ / ↘ / ↖

↕、↗、↘、↖を押してメニュー項目を選び、⊕を押して決定します。

BACK

メニューまたはオンスクリーンガイドをテレビに表示しているときに、前のメニューに戻る、またはメニューやガイドを閉じます。

OPTIONS (43ページ)

テレビ画面にオプションメニューを表示します。

HOME (43ページ)

テレビにホームメニューを表示します。

5 ⏏ (音量) +*/-

すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。

⏏ (消音)

一時的に音を消します。消音を解除するときは、もう一度押します。

⏏ / ⏏ (早戻し / 早送り)、

⏏ (再生 / 一時停止)*、

⏏ / ⏏ (前へ / 次へ)、■ (停止)

接続されたBLUETOOTH機器の再生、一時停止、スキップ、停止の操作を行います。

TUNING +/-

FM放送局をスキャンします。

MEMORY*

受信中の放送局をプリセットとして登録します。

PRESET +/-

プリセット放送局またはチャンネルを選びます。

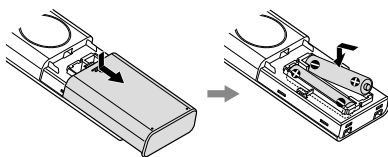
- * ⏏、⏏およびMEMORYには凸点(突起)が付いています。操作するときの目印としてお使いください。

ご注意

- 上記の説明は例としてあげています。
- つないでいる機器の種類によっては、付属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

リモコンに電池を入れるには

リモコンに単4形マンガン乾電池(付属)を2個入れます。+-の向きを正しく入れてください。



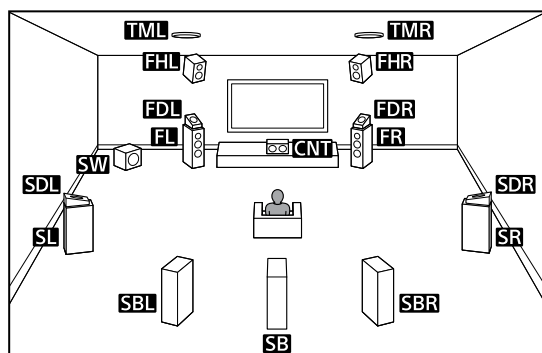
ご注意

- リモコンを高温多湿の場所に放置しないでください。
- 新しい電池を古い電池と一緒に使わないでください。
- マンガン電池と種類の違う電池を一緒に使わないでください。
- 単4形マンガン乾電池のご使用をおすすめします。
- 本体前面のリモコン受光部を直射日光または直接光に当てないでください。誤作動の原因となることがあります。
- 電池は液漏れや腐食により破損するおそれがあります。長い間リモコンを使わないときは、電池を取りはずしておいてください。
- リモコンを操作しても本機が反応しないときは、電池を2つも新しいものと取り替えてください。

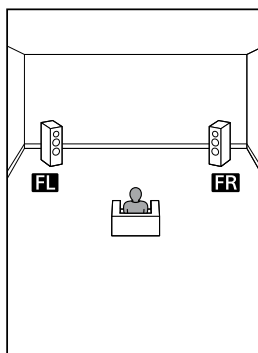
1: スピーカーシステムを決める

お持ちのスピーカーとアクティブサブウーファーの本数に合わせて、構築するスピーカーシステムを決めます。本機に接続できるスピーカーの種類と、そのスピーカーを配置する一般的な位置は下記の図と表のとおりです。

本機を設置している部屋



別の部屋
(フロントBスピーカー使用)



図で使われている略称	スピーカーの種類	スピーカーの働き
FL	フロント左スピーカー	フロント左／フロント右チャンネルの音声を出力します。
FR	フロント右スピーカー	
CNT	センタースピーカー	センターチャンネルの音声(セリフやボーカルなど)を出力します。
SL	サラウンド左スピーカー	サラウンド左／サラウンド右チャンネルの音声を出力します。
SR	サラウンド右スピーカー	
SBL	サラウンドバック左スピーカー	サラウンドバック左／サラウンドバック右チャンネルの音声を出力します。
SBR	サラウンドバック右スピーカー	
SB	サラウンドバックスピーカー	サラウンドバックチャンネルの音声を出力します。
SW	アクティブサブウーファー	LFE (低域効果音) チャンネルの音声を出力して他のチャンネルの低音部を補強します。
TML	トップミドル左スピーカー	トップミドル左／トップミドル右チャンネルの音声を出力します。
TMR	トップミドル右スピーカー	

図で使われている略称	スピーカーの種類	スピーカーの働き
FDL	フロントDolby Atmos イネーブルド左スピー カー	トップミドル左／トップミドル右チャンネル の音声を出力し、天井に反射させます。天井 スピーカーを設置せずに、Dolby Atmos 3Dコンテンツの音声を再生します。
FDR	フロントDolby Atmos イネーブルド右スピー カー	
SDL	サラウンドDolby Atmos イネーブルド左スピー カー	トップミドル左／トップミドル右チャンネル の音声を出力し、天井に反射させます。天井 スピーカーを設置せずに、Dolby Atmos 3Dコンテンツの音声を再生します。
SDR	サラウンドDolby Atmos イネーブルド右スピー カー	
FHL	フロントハイ左 スピーカー	フロントハイ左／フロントハイ右チャンネル の音声を出力します。
FHR	フロントハイ右 スピーカー	

ちょっと一言

- サラウンドバックスピーカー (SB) を1台のみつなぐ場合は、サラウンドバックスピーカーを視聴位置の真後ろに置いてください。
- アクティブサブウーファー (SW) から出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

本書で説明しているスピーカーシステム

本書では、下表の代表的なスピーカーシステムを例として、設置、接続、設定を説明しています。本機が対応しているすべてのスピーカーシステムは、「スピーカーパターンを選ぶ」(44ページ)を参照してください。

スピーカーシステム	スピーカー 設置／接続 の参照ページ	[ASSIGN SURROUND BACK TERMINALS]	[Speaker Pattern] 「PATTERN」	[Front High/Top/ Dolby Speakers] 「HEIGHT」
A 5.1チャンネル	16	[Surround Back Speakers/ Nothing]	[5.1ch] 「5.1」	—
B 7.1チャンネル (サラウンドバック スピーカー使用)	17	[Surround Back Speakers/ Nothing]	[7.1ch] 「7.1」	—
C 5.1.2チャンネル (トップミドル スピーカー使用)	18	[Height Speakers]	[5.1.2ch] 「5.1.2」	[Top Middle Speakers] 「TM」
D 5.1.2チャンネル (フロントDolby Atmosイネーブルド スピーカー使用)	19	[Height Speakers]	[5.1.2ch] 「5.1.2」	[Front Dolby Speakers] 「FD」

スピーカーシステム	スピーカー 設置／接続 の参照ページ	[ASSIGN SURROUND BACK TERMINALS]	[Speaker Pattern] 「PATTERN」	[Front High/Top/ Dolby Speakers] 「HEIGHT」
E 5.1チャンネル (フロントB スピーカー使用)	20	[Front B Speakers]	[5.1ch] 「5.1」	—
F 5.1チャンネル (バイアンプ接続)	21	[Bi-Amplifier Speakers]	[5.1ch] 「5.1」	—
G 2.1チャンネル	22	[Surround Back Speakers/ Nothing]	[2.1ch] 「2.1」	—

2：スピーカーを設置／接続する

お好みのスピーカーシステムに応じて、スピーカーやアクティブサブウーファーを部屋に配置し、本機に接続します。16ページ以降に記載のスピーカー配置図は理想的な例です。配置例とまったく同じように配置する必要はありませんので、お部屋の環境に合わせて配置を調整してください。

ご注意

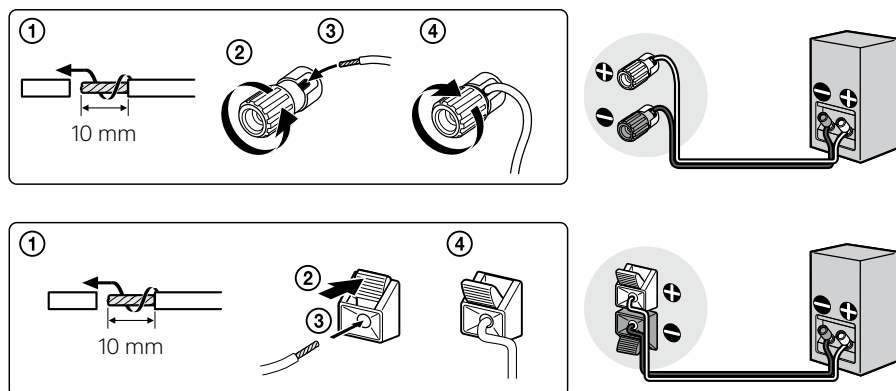
- 本機に接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、 $6\ \Omega \sim 16\ \Omega$ です。
- ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。
- 電源コードをつなぐ前に、SPEAKERS端子間でスピーカーケーブルの金属線部が互いに接触していないこと、または本体後面に接触していないことを確認してください。接触していると、アンプ回路の故障につながります。
- オートスタンバイ機能付きのアクティブサブウーファーをつないで映画を見るときは、オートスタンバイ機能をオフにしてください。オートスタンバイ機能がオンになっていると、アクティブサブウーファーの入力信号のレベルに合わせて、電源がスタンバイ状態になり、音声が届かなくなることがあります。

ちょっと一言

アクティブサブウーファーを1台のみを使う場合は、どちらかのSUBWOOFER OUT端子につないでください。最大2台までのアクティブサブウーファーをSUBWOOFER OUT端子につなぐことができます。

スピーカーケーブルのつなぎかた

スピーカーケーブルは、下図のように本機側とスピーカー側の極性+ (赤) / - (黒)を合わせてつないでください。スピーカーケーブル先端の被覆を10 mm程度むいて、ケーブルの芯線をしっかりとねじり、図のように先端を端子に差し込んでください。

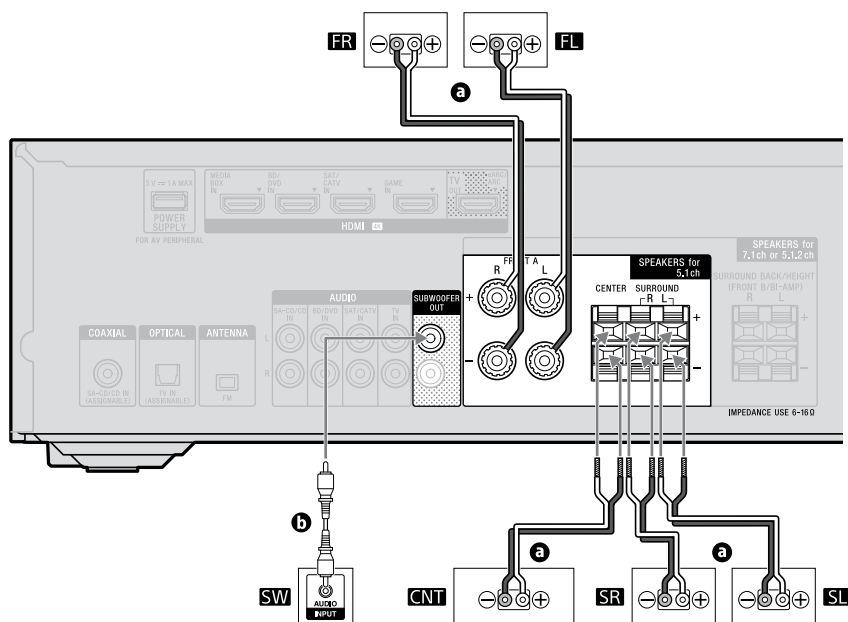
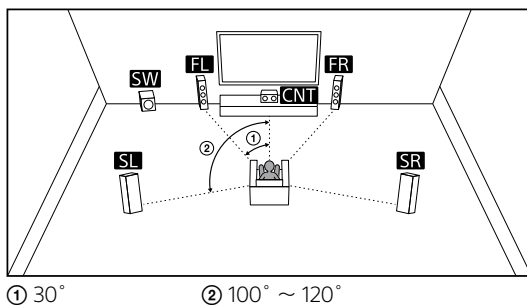


ご注意

- スピーカーケーブルの被覆をむきすぎて、スピーカーワイヤー同士が接触することがないように気をつけてください。
- 不適切な接続をすると、本機の故障の原因となることがあります。

A 5.1チャンネルスピーカーシステム

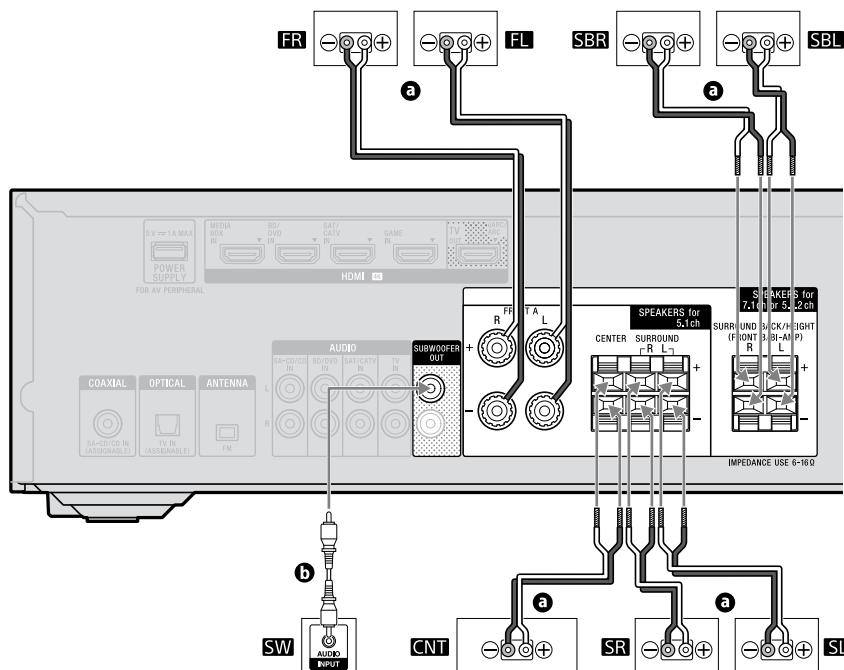
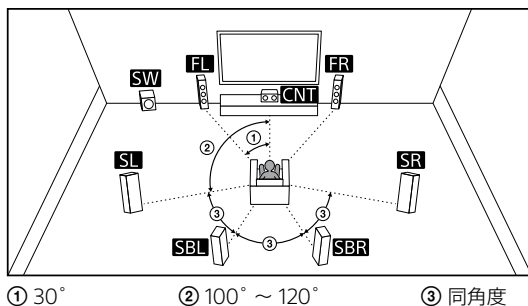
映画館のようなマルチチャンネルサラウンド®音声を充分に楽しむには、5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）およびアクティブサブウーファーが必要です。



- a スピーカーケーブル(別売)
- b モノラル音声ケーブル(別売)

B 7.1チャンネルスピーカーシステム(サラウンドバックスピーカー使用)

DVDやブルーレイディスクに記録された6.1チャンネルまたは7.1チャンネルの音声を忠実に再現することができます。



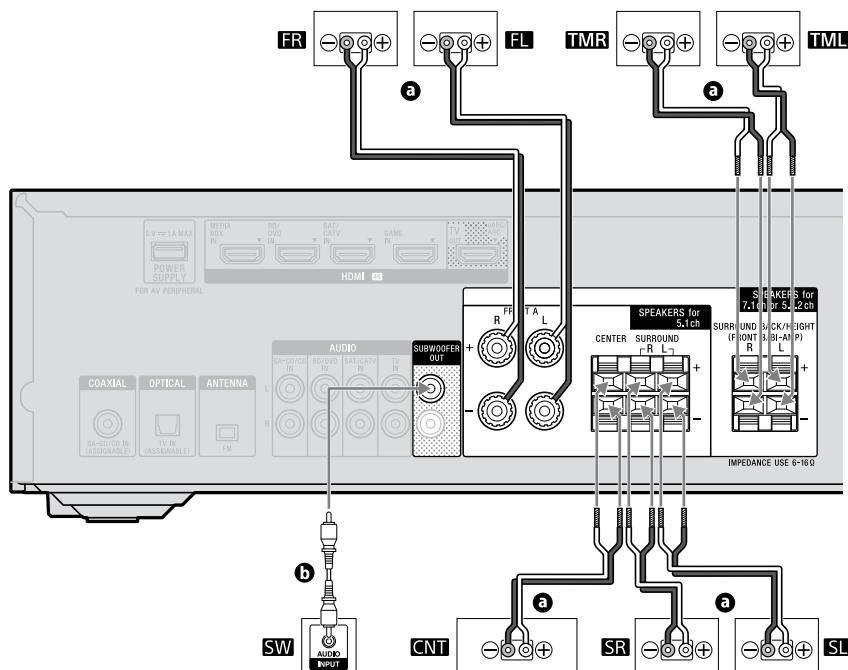
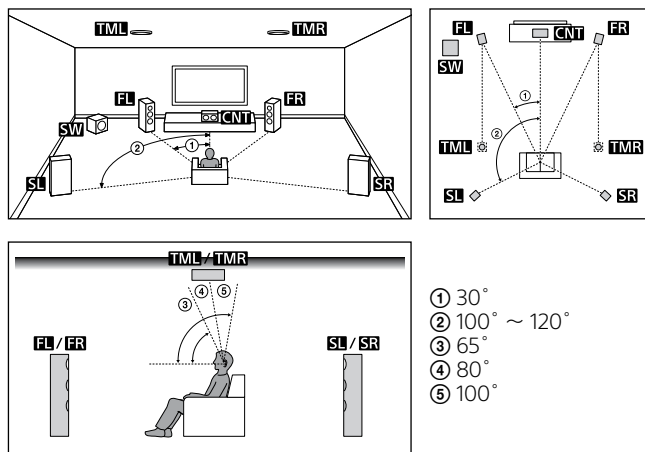
- スピーカーケーブル(別売)
- モノラル音声ケーブル(別売)

ちょっと一言

サラウンドバックスピーカーを1台のみ接続する場合は、サラウンドバックスピーカーを視聴位置の真後ろに配置し、L (+/-) 端子に接続してください。

C 5.1.2チャンネルスピーカーシステム(トップミドルスピーカー使用)

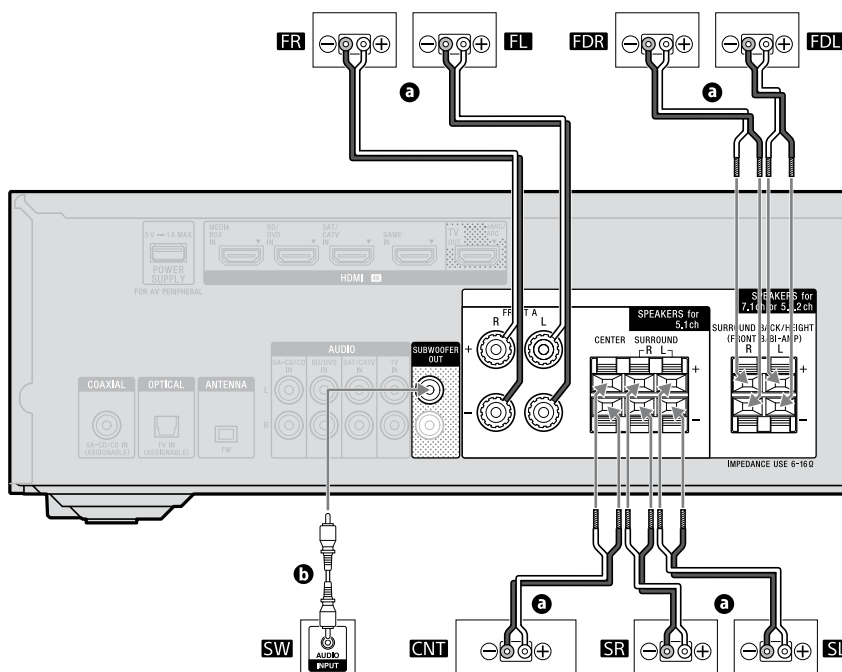
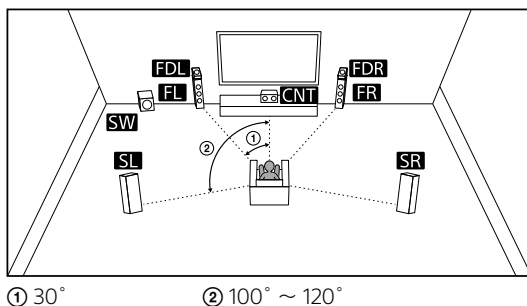
2本のトップミドルスピーカーを接続し、垂直方向のサウンドエフェクトを楽しむことができます。



- Ⓐ スピーカーケーブル(別売)
- Ⓑ モノラル音声ケーブル(別売)

D 5.1.2チャンネルスピーカーシステム(フロントDolby Atmosイネーブルスピーカー使用)

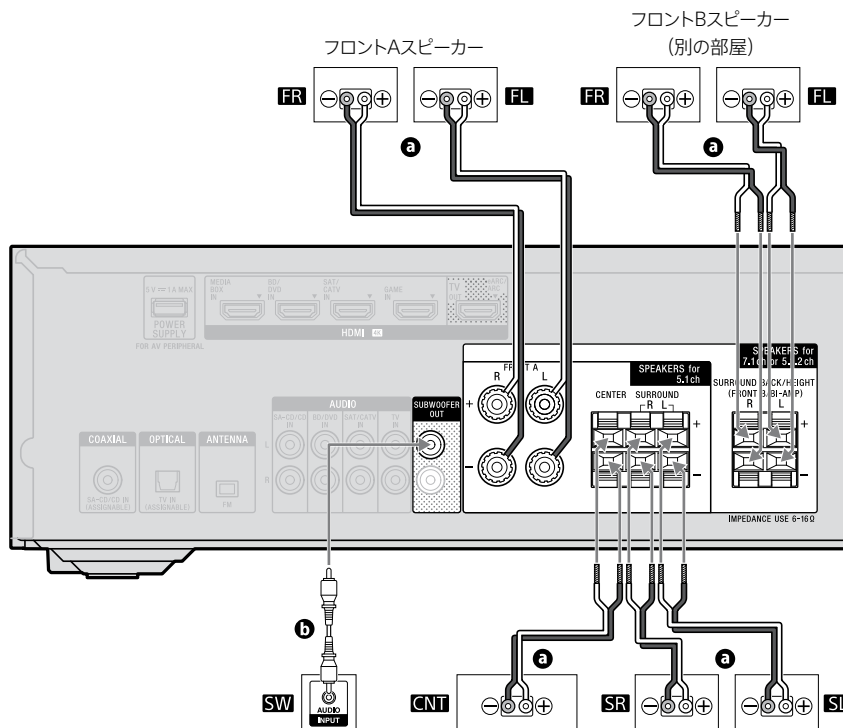
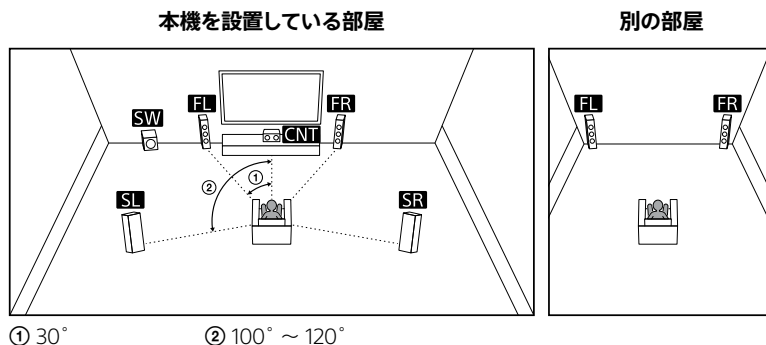
2本のフロントDolby Atmosイネーブルスピーカーを接続し、垂直方向のサウンドエフェクトを楽しむことができます。



- Ⓐ スピーカーケーブル(別売)
- Ⓑ モノラル音声ケーブル(別売)

E 5.1チャンネルスピーカーシステム(フロントBスピーカー使用)

フロントBスピーカーを追加することにより、音声を別の部屋で楽しめます。



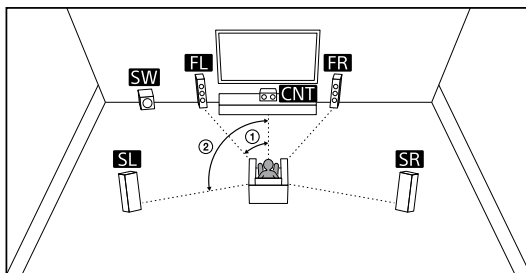
- **a** スピーカーケーブル(別売)
- **b** モノラル音声ケーブル(別売)

ご注意

フロントBスピーカーを追加すると、使いたいスピーカーをSPEAKERSボタンで選べます(46ページ)。「OFF SPEAKERS」を選べば、スピーカーからは音声が出されません。音声を出力するときは「OFF SPEAKERS」以外の設定を選んでください。

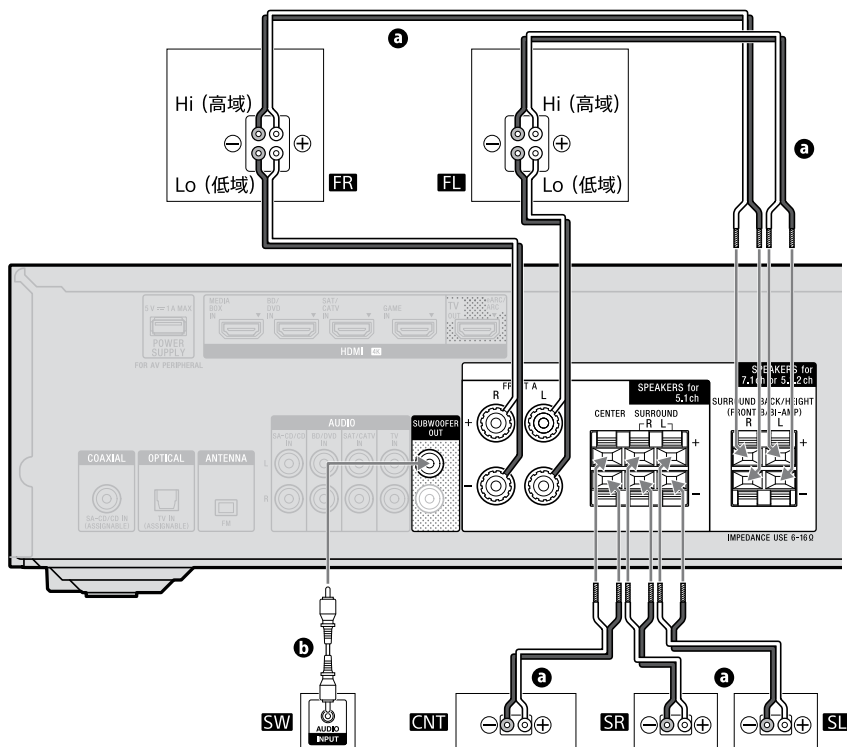
F 5.1チャンネルスピーカーシステム(バイアンプ接続)

フロントスピーカーが高域(ツイーター)用と低域(ウーファー)用の入力端子を備えているワイヤースピーカーの場合は、バイアンプ接続ができます。下図ように、ツイーターとウーファー用のそれぞれの端子を本機につないでください。ツイーターとウーファーを個別のアンプで駆動することによって、より高音質の再生を楽しむことができます。



① 30°

② 100° ~ 120°



● スピーカーケーブル(別売)

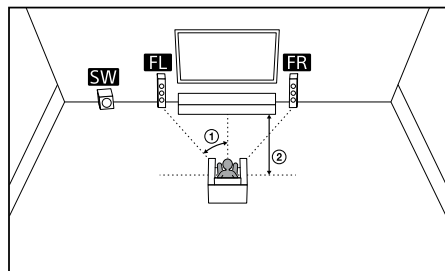
● モノラル音声ケーブル(別売)

ご注意

本機の故障を防ぐため、スピーカーに取り付けられているHi/Loのショート金具を必ず外してください。

G 2.1チャンネルスピーカーシステム

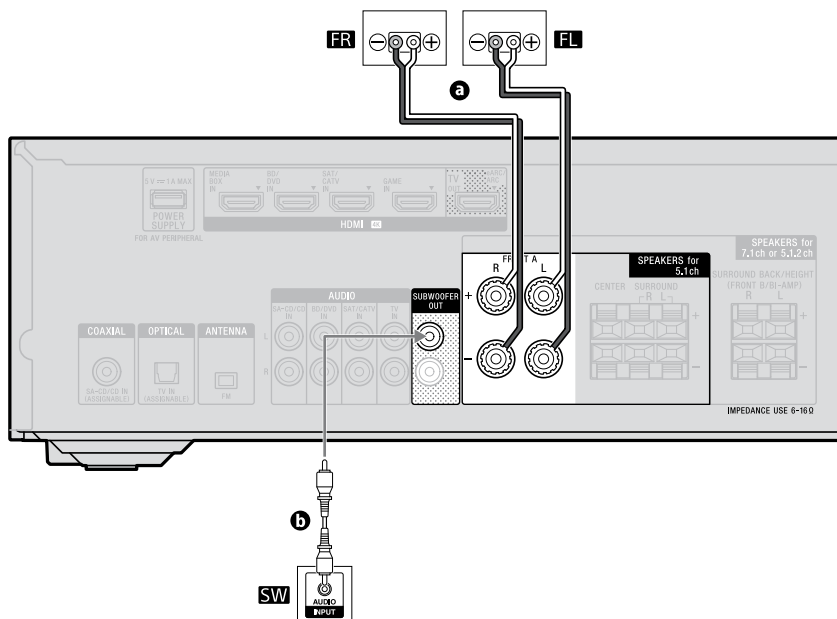
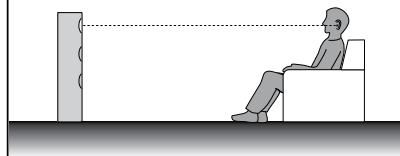
サウンドフィールドの設定で[Front Surround] (フロントサラウンド) を選ぶと、2本のフロントスピーカーのみで5.1チャンネル相当のサラウンド効果を楽しめます。以下のようにフロントスピーカーを配置し、少しずつフロントスピーカーの向きを変えてみて、サラウンド効果をより感じられる向きを探して調整してください。



① 30°

② 1.5 m ~ 3 m

フロントスピーカーのツイーターと、音声を聞く人の耳の高さを合わせます。



- a スピーカーケーブル(別売)
- b モノラル音声ケーブル(別売)

3：テレビを接続する

ご注意

必ず電源コードを抜いた状態でケーブルをつないでください。

テレビをHDMI TV OUT端子に接続します。本機の設定は、テレビ画面に表示されるメニューまたはオンスクリーンガイドを操作して行います。

テレビを接続すると、本機に接続した機器から入力した映像と音声をテレビで視聴できます。また、テレビの音声は本機を通してスピーカーで聞くことができます。

HDMIの特長について

- ソニー製のHDMIケーブルまたは他のHDMI認証を受けたケーブルのご使用をおすすめします。イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）をお使いください。
- 4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号を使う場合は、HDMI信号フォーマットの設定をしてください。詳しくは「HDMI信号フォーマットを選ぶ」（34ページ）をご覧ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルはおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルをDVI-D機器につないだ場合、音声と映像の両方、またはどちらかが失われることがあります。音声为正しく出力されないときは、音声ケーブルまたはデジタル接続ケーブルをそれぞれつなぎ、入力端子を設定し直してください。
- 本機のすべてのHDMI端子は、ITU-R BT.2020、Deep Color、HDR (High Dynamic Range) コンテンツパスルーに対応しています。
- HDMI TV OUT端子はeARC機能およびARC機能に対応しています。
- BT.2020は、スーパーハイビジョンテレビのために策定された新しい広色域規格です。
- HDRは、より広い明るさのダイナミックレンジで映像を表示できる最新の映像フォーマットです。
- 対応する映像フォーマットの詳細については、ヘルプガイドをご覧ください。

HDMI端子の著作権保護について

- 本機のすべてのHDMI端子は、HDCP 2.2 (High-bandwidth Digital Content Protection System Revision 2.2) に準拠し、4K映像度の信号の入出力に対応しています。
HDCP 2.2は、4K映像など4Kコンテンツの著作権をより強固に保護するために策定された新しい著作権保護規格です。
- HDCP 2.2に準拠した著作権保護付きの4Kコンテンツを見る場合は、本機のHDMI端子を、テレビやAV機器のHDCP 2.2対応のHDMI端子につなぎます。お使いのテレビやAV機器のどのHDMI端子がHDCP 2.2に対応しているかは、テレビまたはAV機器に付属の取扱説明書を参照してください。

音声ケーブルの接続について

- 光デジタル音声ケーブルをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル音声ケーブルを折り曲げたり、結んだりしないでください。
- デジタル音声端子はサンプリング周波数32 kHz、44.1 kHz、48 kHzおよび96 kHzに対応しています。
- テレビを本機のTV IN端子につなぐ場合は、テレビの音声出力端子に「固定」または「可変」の設定があるときは、「固定」に設定してください。

4KテレビのHDMI端子がeARCまたはARCとHDCP 2.2に対応している場合

ご注意

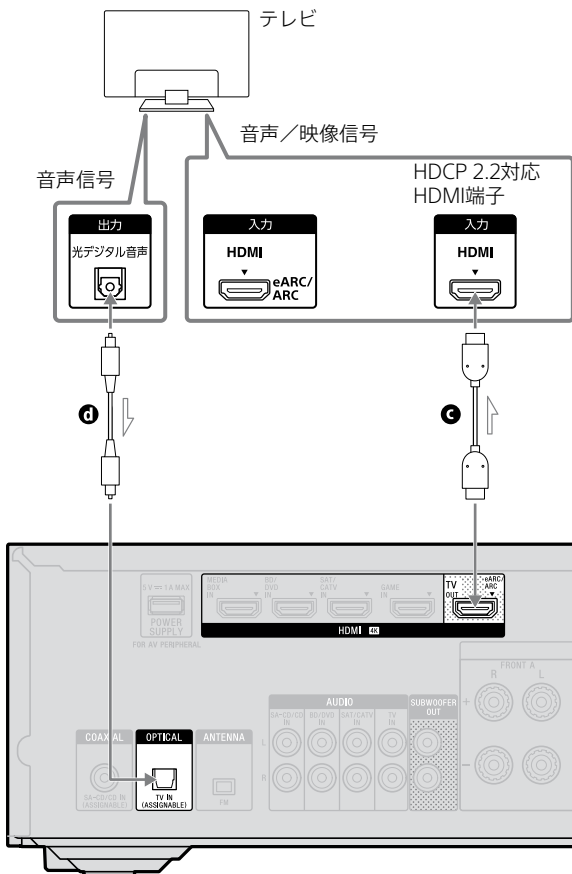
- 24

4KテレビのeARCまたはARC対応のHDMI端子がHDCP 2.2に非対応の場合

4KコンテンツはHDCP 2.2で著作権保護されています。

4Kコンテンツを楽しむためには、テレビのHDCP 2.2に対応したHDMI端子と本機のHDMI端子をHDMIケーブルで接続してください。

この場合、テレビのeARC機能やARC機能を使ってテレビの音声を本機に送ることができません。テレビの光デジタル音声出力端子と本機のOPTICAL TV IN端子を光デジタル音声ケーブルでつないでください。

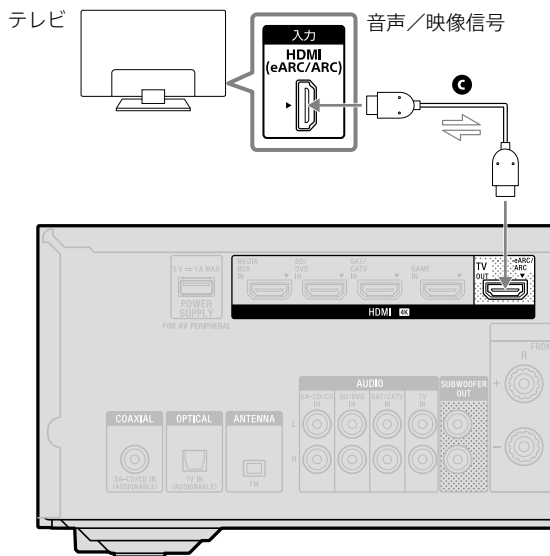


- HDMIケーブル(別売)
- 光デジタル音声ケーブル(別売)

4K非対応テレビを接続する

テレビのHDMI端子がeARCまたはARCに対応している場合

eARCおよびARCは、テレビのデジタル音声をHDMIケーブルを通してAV機器に送る機能です。テレビのHDMI入力端子に「eARC」または「ARC」の表示があれば、eARCまたはARCに対応しているテレビです。テレビのeARCまたはARC対応のHDMI入力端子と本機を1本のHDMIケーブルで接続するだけで、テレビの音声を本機に接続したスピーカーで聞くことができます。



● HDMIケーブル(別売)

ご注意

- この接続をするには、HDMI機器制御機能をオンにする必要があります。AMP MENUを押し、次に \uparrow/\downarrow と \oplus を押して、「<HDMI>」-「CTRL.HDMI」-「CTRL ON」の順に選びます。
- お使いのテレビのeARC機能またはARC機能もオンに設定してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機のHDMI TV OUT端子の表示が「ARC」の場合は、ソフトウェアアップデートを行ってください。詳しくはヘルプガイドの「ソフトウェアをアップデートする「UPDATE」」をご覧ください。
HDMI TV OUT端子の表示が「eARC/ARC」の場合は、ソフトウェアはeARC機能に対応しています。

ちょっと一言

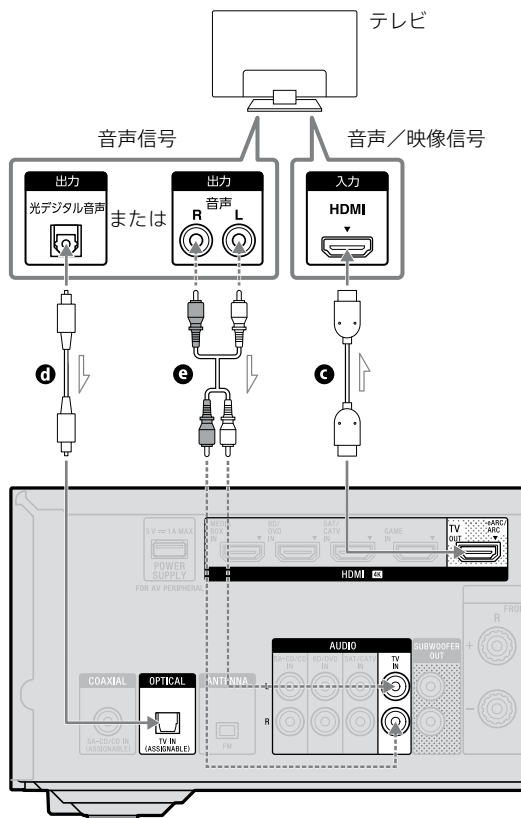
テレビのeARCまたはARC対応のHDMI端子がすでに他の機器に接続されている場合は、他の機器を外し、本機に接続し直してください。

テレビのHDMI端子がeARCおよびARCに非対応の場合

eARCおよびARCは、テレビのデジタル音声をHDMIケーブルを通してAV機器に送る機能です。テレビのHDMI入力端子に「eARC」または「ARC」の表示がない場合はeARCおよびARCに非対応のテレビです。

本機の音声／映像信号をテレビに出力するために、HDMIケーブル **㉓** で接続します。

テレビの音声を本機に出力するために、光デジタル音声ケーブル **㉔** またはステレオ音声ケーブル **㉕** を接続します。



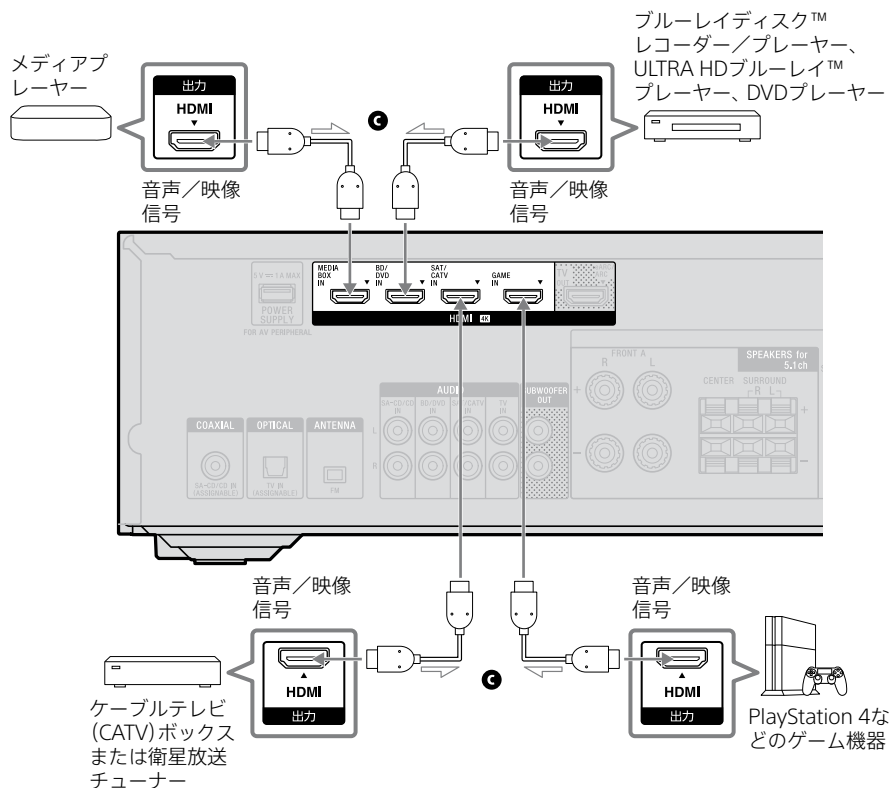
—— 推奨する接続
 - - - 代替接続

- ㉓ HDMIケーブル(別売)
- ㉔ 光デジタル音声ケーブル(別売)
- ㉕ ステレオ音声ケーブル(別売)

4：AV機器を接続する

AV機器を本機のHDMI端子に接続する際の注意点は、「HDMIの特長について」(23ページ)を参照してください。

HDMI端子を使って機器を接続する

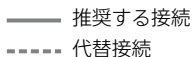


● HDMIケーブル(別売)

ちょっと一言

- この接続は一例です。各HDMI機器はどのHDMI IN端子にもつながることができます。
- 画質は接続端子の種類によって異なります。お使いの機器にHDMI出力端子がある場合は、HDMI接続することをおすすめします。

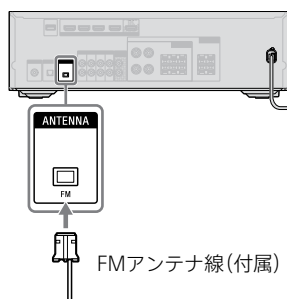
接続と準備をする



- * フォノ (PHONO) 出力端子しかないレコードプレーヤーを接続する場合は、レコードプレーヤーと本機の間
にフォノイコライザー (別売) をつなぐ必要があります。

- AUDIO IN端子には、表示されている以外の機器も接続することができます。
- それぞれの入力の名前を変えて本機の表示窓に表示させることもできます。詳しくはヘルプガイドの「各入力の名前を変更する(名前)」をご覧ください。

5：FMアンテナを接続する

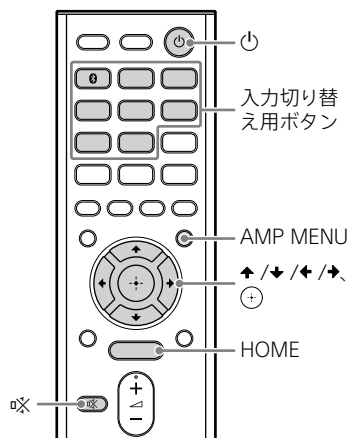


ご注意

- FMアンテナ線を完全に伸ばしてください。
- FMアンテナ線は、できるだけ水平になるように設置してください。

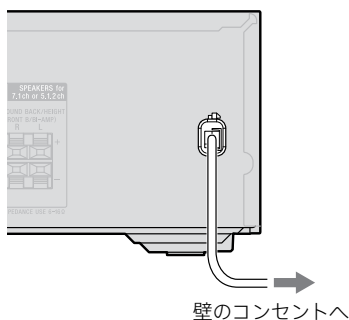
6：電源を入れてかんたん設定(Easy Setup)を行う

本機とテレビの電源を入れ、テレビに表示されるかんたん設定(Easy Setup)画面の指示に従い初期設定を行います。



1. テレビにかんたん設定(Easy Setup)画面を表示する

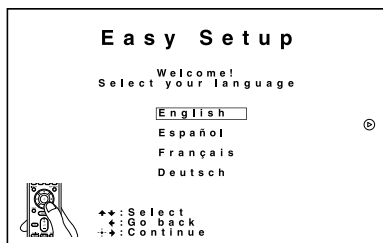
1 電源コードをコンセントにつなぐ。



2 テレビの電源を入れ、テレビの入力を本機をつないでいる端子に切り替える。

3 ㊦ (電源) を押して本機の電源を入れる。

テレビにかんたん設定 (Easy Setup) 画面が表示されます。



ご注意

かんたん設定 (Easy Setup) の操作は本機だけではできません。テレビをつなぐ必要があります。

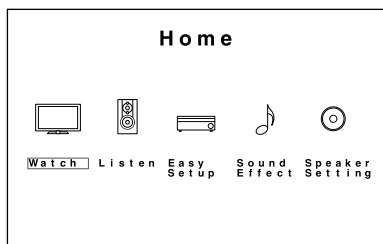
ちょっと一言

- 本機を初期化後に電源を入れたときも、かんたん設定 (Easy Setup) 画面が表示されます。
- 電源を切るときは、もう一度 ㊦ (電源) を押します。

かんたん設定 (Easy Setup) 画面を手動で表示させるには

1 HOME を押す。

テレビにホームメニューが表示されます (43ページ)。



2 ㊤ / ㊦ を押して [Easy Setup] を選び、㊦ を押す。

2. 言語を選ぶ

画面に表示されるメッセージの言語を選びます。

㊤ / ㊦ を押して言語を選び、㊦ を押す。

英語、スペイン語、フランス語、またはドイツ語が利用できます。

3. 自動音場補正を行う

自動音場補正機能で以下の自動補正を行うことができます。

- 各スピーカーと本機の接続の確認
- スピーカーレベルの調節
- 各スピーカーと視聴位置の距離の測定*
- スピーカーサイズの測定*
- 周波数特性の測定 (EQ) *

* サウンドフィールドで [Direct] が選ばれていて、かつアナログ入力選ばれているときは、測定結果は使用できません。

自動音場補正を行う前に

以下の項目を実行または確認してください。

- ヘッドホンを抜く。
- 測定を正確に行うために、必ず静かな場所で測定する。
- 本体前面のSPEAKERSボタンを使って、スピーカー出力を「OFF SPEAKERS」以外の設定にする (46ページ)。

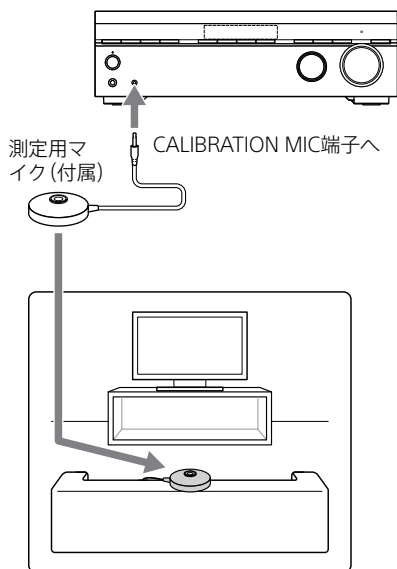
ご注意

- 測定中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲のお子様などに充分配慮してください。
- 自動音場補正を行う前にミュート (消音) 機能がオンになっているときは、ミュート (消音) 機能が自動的に解除されます。
- ダイポールなどの特殊なスピーカーが使われている場合は、正しい測定ができなかったり、自動音場補正ができなかったりすることがあります。

- お使いのアクティブサブウーファースの特性によっては、距離の設定値が実際の位置と異なることがあります。

1 CALIBRATION MIC端子に付属の測定用マイクを接続して、視聴位置に測定用マイクを設置する。

測定用マイクが耳の位置と同じ高さになるようにしてください。

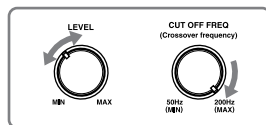


ご注意

- 測定用マイクのプラグは、CALIBRATION MIC端子の奥までしっかり差し込んでください。測定用マイクがしっかりつながれていないと、正しく測定できないことがあります。
- 測定エラーを避けるため、測定用マイクとスピーカーの間にある障害物を取り除いてください。

2 アクティブサブウーファーをつないでいる場合、アクティブサブウーファースの電源を入れて音量を上げる。

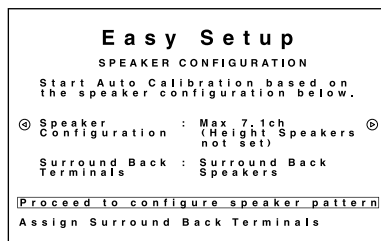
アクティブサブウーファースは以下のとおり調節、設定してください。



- 音量は、ボリューム (LEVEL) つまみを回し、中間よりやや小さめの音量になるように調節してください。
- クロスオーバー周波数の設定機能があるアクティブサブウーファースをつないでいる場合は、設定値を最大に設定してください。
- オートスタンバイ機能があるアクティブサブウーファースをつなぐ場合は、オートスタンバイ機能を切 (無効) にしてください。

詳しくは、アクティブサブウーファースの取扱説明書を参照してください。

3 測定条件を設定する。



- ① 本機のSPEAKERS SURROUND BACK/HEIGHT(FRONT B/BI-AMP)端子にスピーカーを接続している場合は、**↑/↓**を押して[Assign Surround Back Terminals]を選び、**+**を押す。
- ② 「本書で説明しているスピーカーシステム」(13ページ)をご覧ください、**↑/↓**を押して、サラウンドバック端子に割当て、**+**を押す。
- ③ **+**を押し、次に**↑/↓**を押してスピーカーパターンを選び、**+**を押す。
[Front High/Top/Dolby Speakers]が表示された場合は、**+**を押し、次に**↑/↓**を押してスピーカーの種類を選び、**+**を押す。

例：5.1チャンネルスピーカーシステム

- 手順②で[Surround Back Speakers/ Nothing]を選ぶ。
- 手順③で[5.1ch]を選ぶ。

ご注意

お部屋のスピーカー配置を、12ページのイラストにてらしてご覧ください。

4 ➡を押す。

5 ⬆/⬆を押して[Start]を選び、⊕を押して自動音場補正を開始してください。

6 本機に測定用マイクが接続されていることを確認し、⊕を押す。

7 画面の指示を確認し、⊕を押す。

5秒後に測定が始まります。

各スピーカーから順にテスト音が鳴り続きます。測定が完了するのにおよそ30秒かかります。

測定が終わると、ピープ音とともに画面が切り替わります。

8 測定が成功した場合は、⬆/⬆を押して[Save&Exit]を選び、⊕を押す。

測定結果を保存し、設定を終了します。

測定が失敗した場合は、エラーコードまたは警告メッセージ(54ページ)が表示されます。メッセージを確認して必要な調整を行ってから[Retry]を選び、自動音場補正を再度実行します。

測定結果を保存せずに設定を終了するには[Exit]を選びます。

9 自動音場補正を終了する。

測定用マイクを取りはずし、⊕を押して、自動音場補正を終了してください。

ちょっと一言

自動音場補正(D.C.A.C.)は視聴環境に合わせて最適な音声バランスを実現するためのものです。スピーカーのレベルは、「<LEVEL>」メニューの「T. TONE」を使ってお好みに合わせて手動でも調節できます。テストトーンについて詳しくは、ヘルプガイドをご覧ください。

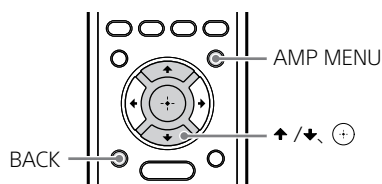
自動音場補正をキャンセルするには

測定中に以下の操作を行うと自動音場補正の測定がキャンセルされます。

- ⏻ (電源)を押す。
- リモコンの入力切り替え用ボタンを押す、または本体前面のINPUT SELECTORつまみを回す。
- リモコンのHOME、AMP MENUまたは⌫ (消音)を押す。
- 本体前面のSPEAKERSを押す。
- 音量を調節する。
- PHONES端子にヘッドホンをつなぐ。

7: HDMI設定をする

本機とテレビやAV機器をHDMIケーブルで接続した場合に設定してください。



eARC機能またはARC機能を有効にする

テレビのeARCまたはARC対応のHDMI入力端子と本機を接続した場合(24、25、26ページ)、HDMI機器制御機能およびeARC機能またはARC機能をオンにします。

1 AMP MENUを押し、次に \leftarrow / \rightarrow と \oplus を押して、「<HDMI>」-「CTRL.HDMI」-「CTRL ON」の順に選ぶ。

2 \leftarrow / \rightarrow と \oplus を押して「EARC」-「ON」の順に選ぶ。

eARC機能が有効になり、テレビの音声を本機に接続したスピーカーで聞くことができます。

eARC対応のテレビにつないでいるときは、eARC機能が働きます。ARC対応でeARC非対応のテレビにつないでいるときは、ARC機能が働きます。

「OFF」を選ぶと、eARC対応のテレビにつないでいてもeARC機能は有効にならず、ARC機能が働きます。

ご注意

- お使いのテレビのHDMI機器制御機能を必ずオンに設定してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。
- お使いのテレビによっては、eARCまたはARCの設定項目が用意されている場合があります。テレビ側の設定も確認してください。

詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書を参照してください。

ちょっと一言

- 前の画面に戻るには、BACKを押します。
- メニューを閉じるには、AMP MENUを押します。
- テレビ音声の対策についての詳細は、「テレビ音声」をご覧ください(48ページ)。

HDMI信号フォーマットを選ぶ

接続したテレビとAV機器に適した設定を選んでください。

1 AMP MENUを押し、次に \leftarrow / \rightarrow と \oplus を押して、「<HDMI>」-「SIG.FMT.」の順に選ぶ。

2 \leftarrow / \rightarrow を押して使いたい入力を選び、 \oplus を押す。

3 \leftarrow / \rightarrow を押して、接続したテレビとAV機器の映像信号フォーマットに合った設定を選び、 \oplus を押す。
「STANDARD」：標準映像フォーマットに対応したテレビやAV機器を使用する場合に選びます。

「ENHANCED」：テレビとAV機器の両方が4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなどの高帯域ビデオフォーマットに対応している場合に選びます。

映像フォーマットについて詳しくは、ヘルプガイドをご覧ください。

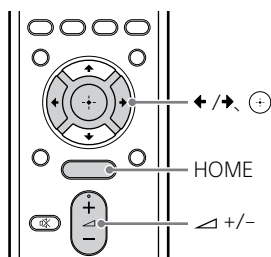
ご注意

- お使いのテレビやビデオ機器によっては、4Kコンテンツや3Dコンテンツが表示されない場合があります。
- つないだ機器について詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。
- お使いのテレビに高帯域幅を必要とする映像フォーマットの同じようなメニューがあり、本機で「ENHANCED」を選んでいる場合は、テレビのメニューも適切な設定になっているか確認してください。テレビ側のメニュー設定については、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

再生する

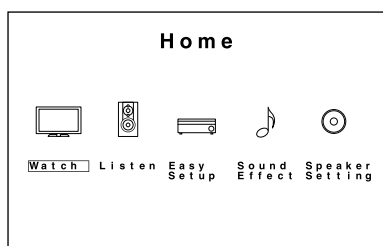
接続したテレビやAV機器の音声や映像を再生する

AV機器を本機に接続して、映像や音声などのさまざまなコンテンツを楽しむことができます。



1 HOMEを押す。

テレビにホームメニューが表示されます。



ご注意

テレビによっては、ホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。

2 ◀/▶を押して[Watch]または[Listen]を選び、⊕を押す。

テレビにメニュー項目のリストが表示されます。

3 ◀/▶を押して再生したい機器を選び、⊕を押す。

4 接続した機器で再生を開始する。

ちょっと一言

本機の電源が入っていない状態でも、接続した機器からの映像や音声を楽しみたいときは、「<HDMI>」メニューの「STBY.THRU」を「ON」に設定してください。

5 ◀ +/-を押して音量を調節する。

ご注意

次に電源を入れたときに、大きな音が出てスピーカーを破損しないように、本機の電源を切るときは音量を下げてください。

ちょっと一言

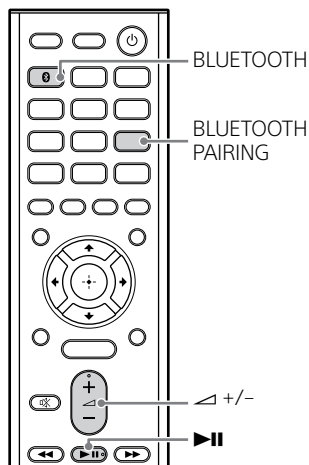
- 音量をすばやく上げ下げするには以下の操作を行います。
 - 本体前面のMASTER VOLUMEつまみをすばやく回す。
 - ◀ +/-のいずれかを長押しする。
- 音量を微調整するには以下の操作を行います。
 - 本体前面のMASTER VOLUMEつまみをゆっくり回す。
 - ◀ +/-のいずれかを短く押す。

FMラジオを聞くには

内蔵のFMチューナーで、高音質のFMラジオ放送を楽しむことができます。操作について詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

BLUETOOTH機器の 音声を再生する

BLUETOOTH機能に対応しているウォークマン®あるいはスマートフォンやタブレットの音声／音楽コンテンツを、本機に送信して楽しむことができます。



BLUETOOTH表示ランプについて


本体前面のBLUETOOTHボタンの上の
BLUETOOTH表示ランプが青く点灯または点
滅し、BLUETOOTHの状態が確認できます。

本機の状態	ランプの状態
接続するBLUETOOTH機器を検出中	ゆっくり点滅する
BLUETOOTHペアリング中	早く点滅する
BLUETOOTH接続確立	点灯する

本機にBLUETOOTH機器を登録 (ペアリング)する

ペアリングとは、BLUETOOTH機器同士を互いにあらかじめ登録することです。次の手順に従って、お使いのBLUETOOTH機器と本機をペアリングしてください。一度ペアリングをしたら再度ペアリングを行う必要はありません。ペアリングが完了したら、「登録済み(ペアリング済み)機器の音声を聞く」(37ページ)へ進んでください。

- 1 **BLUETOOTH機器を本機から1メートル以内の場所に置く。**
- 2 **BLUETOOTH PAIRINGを押す。**
表示窓に「PAIRING」と点滅します。5分以内に手順3を行わないと、ペアリングは中止されます。その場合は、もう一度この手順をやり直してください。
- 3 **BLUETOOTH機器でペアリング操作を行い、本機を検出する。**
詳しくは、BLUETOOTH機器の取扱説明書を参照してください。
BLUETOOTH機器の種類によっては、検出された機器のリストがBLUETOOTH機器の画面に表示されます。本機は「STR-DH790」として表示されます。
- 4 **BLUETOOTH機器の画面で「STR-DH790」を選ぶ。**
「STR-DH790」が表示されない場合は、手順1からやり直してください。
BLUETOOTH接続が確立すると、表示窓にペアリングされている機器名が表示されます。
- 5 **BLUETOOTH機器で再生を開始する。**
- 6 **音量を調節する。**

まずBLUETOOTH機器の音量を調節し、音量がまだ小さすぎる場合は、 +/-を押して音量を調節します。

ペアリング操作を中止するには

入力を切り替えます。

ご注意

- 一部のBLUETOOTH機器のアプリは、本機から操作できません。
- 手順4でBLUETOOTH機器の画面でパスキーの入力が求められたら、「0000」を入力します。パスキーは、「パスコード」、「PINコード」、「PINナンバー」、「パスワード」などと呼ばれる場合があります。
- 最大10台のBLUETOOTH機器とペアリングできます。11台目のBLUETOOTH機器をペアリングすると、最も接続履歴の古い機器が新しくペアリングした機器に置き替わります。

ちょっと一言

BLUETOOTH機器が繋がっていないときに、[BT] 入力の▶IIを押すと、本機は自動的に最後に接続したBLUETOOTH機器につながります。

登録済み(ペアリング済み)機器の 音声を聞く

1 BLUETOOTH機器のBLUETOOTH機能をオンにする。

2 BLUETOOTHを押す。

最後に接続したBLUETOOTH機器が自動的に接続されて、表示窓に機器名が表示されます。

3 BLUETOOTH機器で再生を開始する。

4 音量を調節する。

まずBLUETOOTH機器の音量を調節し、音量がまだ小さすぎる場合は、◀ +/-を押して音量を調節します。

BLUETOOTH機器の接続を解除するには

以下の操作を行うと接続が解除されます。

- 入力を切り替える。
- BLUETOOTH機器のBLUETOOTH機能をオフにする。
- BLUETOOTH PAIRINGを押す。
- 本機またはBLUETOOTH機器の電源を切る。
- 本体前面のBLUETOOTHをもう一度押す。

ご注意

- BLUETOOTH機器の仕様によって、機能に差が生じる場合があります。
- BLUETOOTHの無線接続では、BLUETOOTH機器と本機との間で音声データや操作のための信号を送受信して処理を行うため、BLUETOOTH機器本体で再生する場合とは異なり、操作に対する反応が遅れたり、再生開始までに遅延が生じたりすることがあります。
- BLUETOOTH機器による以下の遠隔操作は、本機が見える位置からのみ操作を行ってください。
 - 再生/停止/一時停止
 - 曲送り/曲戻し
 - 音量の調整

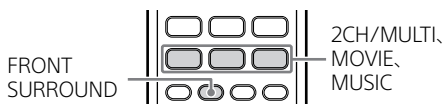
ちょっと一言

- BLUETOOTH機器から受信する音声データ的方式として、AACを選択することができます。詳しくはヘルプガイドの「BT AAC」設定をご覧ください。
- 「<BT>」メニューで「BT POWER」が「BT ON」に設定されているときは、ペアリングされているBLUETOOTH機器から本機に接続できます。詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

音響効果を選ぶ

音場(サウンドフィールド)を選ぶ

お使いのスピーカーシステムの構成や音声(コンテンツ)、またはお好みに合わせてサウンドフィールドを選ぶことができます。



2CH/MULTIまたはMOVIE、MUSIC、FRONT SURROUNDを押す。

表示窓にサウンドフィールドが表示されます。

2CH/MULTI、MOVIE、MUSICの場合は、お好みのサウンドフィールドが表示されるまで繰り返し押してください。

各サウンドフィールドについての詳細は「選べるサウンドフィールドとその効果」(39ページ)をご覧ください。

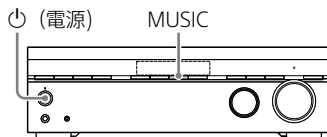
ご注意

- PHONES端子にヘッドホンをつなぐと、自動的に[Headphone(2ch)]に切り替わります。
- 入力やスピーカーパターンの設定、または音声フォーマットによっては、MOVIEおよびMUSICのサウンドフィールドが機能しない場合があります。
- 音声フォーマットによっては、本機は実際の入力信号のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生する場合があります。
- サウンドフィールドの設定によっては、スピーカーまたはアクティブサブウーファーから音声が出力されない場合があります。

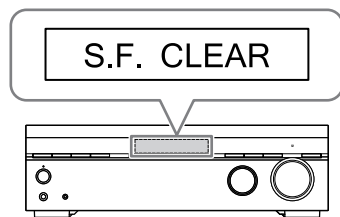
音場(サウンドフィールド)をお買い上げ時の設定に戻すには

この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

- 1 電源を切る。
- 2 MUSICを押しながら⏻ (電源)を押す。



「S.F. CLEAR」が表示窓に表示され、すべての音場(サウンドフィールド)が初期設定状態に戻ります。



選べるサウンドフィールドとその効果

ボタン	サウンドフィールド	表示窓の表示	サウンドフィールドの効果
2CH/MULTI	2ch Stereo (2chステレオ)	2CH ST.	2チャンネル音声信号を、サラウンド効果を加えずに再生できます。モノラル音声信号やマルチチャンネル音声信号は、2チャンネルに変換して出力します。 2本のフロントスピーカーのみで、バーチャルサラウンド効果を加えずに音声信号をそのまま再生したいときに適しています。 フロント左/右の2本のスピーカーのみから音が出ます。アクティブサブウーファーからは音が出ません。
	Multi Ch Stereo (マルチチャンネルステレオ)	MULTI ST.	接続されているすべてのスピーカーから音声を出力します。2チャンネル音声信号やモノラル音声信号の場合は、サラウンド効果を加えずに、すべてのスピーカーから出力します。 マルチチャンネル音声信号の場合は、スピーカーの設定やコンテンツによって、一部のスピーカーからは音声が出力されないことがあります。
	Direct (ダイレクト)	DIRECT	すべての音声信号を、サラウンド効果を加えずに再生できます。
	Auto Format Decoding	A.F.D.	入力された音声信号に応じて、適切な処理方法でデコードし、再生できます。
MOVIE	Dolby Surround	DSUR	Dolby Surroundアップミキサーが従来型の音声コンテンツをマルチチャンネルに拡張し、ハイトスピーカーを含めた、マルチチャンネルスピーカー構成で再生できます。 これにより、従来の映画や音楽コンテンツの再生時でも高さ方向への音像を作り出せるようになるため、これまで以上に高い臨場感を得ることができます。 このアップミキサーは、ドルビープロロジックIIに代わる新しい拡張技術です。
	Neural-X	NEURAL-X	Neural:XはDTSの新しいアップミキサー技術で、ステレオ、5.1チャンネル、7.1チャンネルの映画や音楽をお使いのスピーカー構成に合わせて再配置します。 これにより、従来の映画や音楽コンテンツの再生時でも高さ方向への音像を作り出せるようになるため、これまで以上に高い臨場感を得ることができます。
	Front Surround (フロントサラウンド)	FRT SUR.	ソニーオリジナルのバーチャル信号処理技術により、2本のフロントスピーカーでも豊かなサラウンド効果が楽しめます。
MUSIC	Audio Enhancer (オーディオエンハンサー)	ENHANCER	ポータブルオーディオ機器の音源を、よりクリアな音像で再現します。MP3やその他の圧縮された音源に適しています。

ボタン	サウンド フィールド	表示窓の表示	サウンドフィールドの効果
Headphone(2ch) (ヘッドホン(2ch))*		HP 2CH	2チャンネル音声信号は、サラウンド効果を加えずに再生され、モノラル音声信号やマルチチャンネル音声信号は2チャンネルに変換して出力されます。

* [Headphone(2ch)]を選ぶボタンはありません。ヘッドホンを接続すると自動的に選ばれます。(その他のサウンドフィールドは選べなくなります。)

ご注意

- サラウンドスピーカーと2本のサラウンドバックスピーカーをつないでいるときに、[Direct]を選んで5.1チャンネルの音声を再生すると、音声フォーマットによっては7.1チャンネルのサラウンドシステムのように、サラウンドバックスピーカーからサラウンドスピーカーと同じ音声出力されます。サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの音声レベルは、自動的に最適なバランスに調節されます。
- [Multi Ch Stereo]、[Auto Format Decoding]、[Dolby Surround]以外のサウンドフィールドを選んでいるときは、Dolby AtmosはDolby TrueHDまたはDolby Digital Plusとしてデコードされます。

サウンドフィールドとスピーカー出力の関連性

下の表は、選んだサウンドフィールドによってどのスピーカーから音声出力されるかを示しています。

2chコンテンツ

ボタン	サウンドフィールド	表示窓の表示	フロントスピーカー	センタースピーカー	サラウンドスピーカー	サラウンドバックスピーカー	アクティブサブウーファー	ハイトスピーカー
2CH/ MULTI	2ch Stereo (2chステレオ)	2CH ST.	◎	—	—	—	—	—
	Multi Ch Stereo (マルチチャンネルステレオ)	MULTI ST.	◎	○	○	○	○ ¹⁾	○
	Direct (ダイレクト) (アナログ入力時)	DIRECT	◎	—	—	—	—	—
	Direct (ダイレクト) (その他入力時)	DIRECT	◎	—	—	—	○ ²⁾	—
	Auto Format Decoding	A.F.D.	◎	●	●	●	○ ¹⁾	●
MOVIE	Dolby Surround	DSUR	◎	○	○	○	○ ¹⁾	○
	Neural-X	NEURAL-X	◎	○	○	○	○ ¹⁾	○
	Front Surround (フロントサラウンド)	FRT SUR.	◎	—	—	—	○ ¹⁾	—
MUSIC	Audio Enhancer (オーディオエンハンサー)	ENHANCER	◎	—	—	—	○ ²⁾	—

—：音声出力されません。

◎：音声出力されます。

○：スピーカーパターンの設定および再生コンテンツによっては音声出力されます。

●：ドルビー系ストリームとDTS系ストリームの場合は、スピーカーパターンの設定によって音声出力されます。リニアPCM、DSD、AACの場合は音声出力されません。

¹⁾ アクティブサブウーファーが接続されていて、アクティブサブウーファーありのスピーカーパターン(「x.1」)が設定されているとき、音声出力されます。

²⁾ アクティブサブウーファーが接続され、アクティブサブウーファーありのスピーカーパターン(「x.1」)が設定されていて、かつ[Speaker Setting]メニューの[Size]が[Small]のとき、音声出力されます。

マルチチャンネルコンテンツ

ボタン	サウンド フィールド	表示窓の 表示	フロント スピー カー	センタ スピー カー	サラウ ドスピー カー	サラウ ドバック スピー カー	アクティ ブサブ ウー ファー	ハイトス ピーカー
2CH/ MULTI	2ch Stereo (2chステレオ)	2CH ST.	◎	—	—	—	—	—
	Multi Ch Stereo (マルチチャ ネルステレオ)	MULTI ST.	◎	○	○	○	○	○
	Direct (ダイレクト)	DIRECT	◎	○	○	○	○	○
	Auto Format Decoding	A.F.D.	◎	○	○	○	○	○
MOVIE	Dolby Surround	DSUR	◎	○	○	○	○	○
	Neural-X	NEURAL-X	◎	○	○	○	○	○
	Front Surround (フロント サラウンド)	FRT SUR.	◎	—	—	—	○	—
MUSIC	Audio Enhancer (オーディオ エンハンサー)	ENHANCER	◎	○	○	○	○	○

—: 音声が出力されません。

◎: 音声が出力されます。

○: スピーカーパターンの設定および再生コンテンツによっては音声が出力されます。

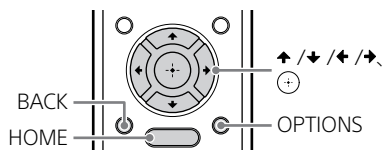
ご注意

音声聞こえない場合は、すべてのスピーカーが正しいスピーカー端子にしっかりとつながれていること(15ページ)と正しいスピーカーパターンが選ばれていること(44ページ)を確認してください。

メニュー／その他の機能

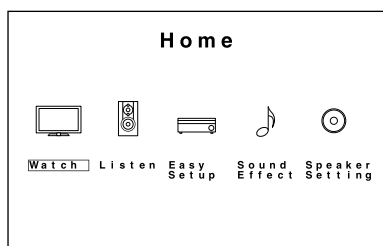
テレビ画面上で メニューを操作する

本機のメニューをテレビ画面に表示して操作することができます。



1 HOMEを押す。

テレビにホームメニューが表示されます。



2 左/右を押して好みのメニューを選び、中心を押す。

テレビにメニュー項目リストが表示されます。

3 上/下/左/右を押して調整したいメニュー項目を選び、中心を押す。

ちょっと一言

- OPTIONSを押してリストを表示して、関連する機能を選べます。
- 前の画面に戻るには、BACKを押します。
- メニューを閉じるには、HOMEを押してホームメニューを表示させ、もう一度HOMEを押します。
- 本体の表示窓のメニューを使って設定できる機能もあります。詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

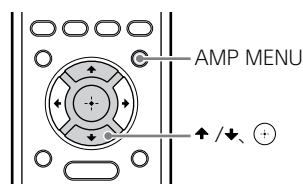
ホームメニュー一覧

メニュー	説明
Watch	接続機器の映像を見るときに選びます。
Listen	内蔵のFMチューナーや接続機器の音声を聞かるときに選びます。
Easy Setup	[Easy Setup]をもう一度実行し、基本設定を行うときに選びます。
Sound Effect	音響効果を楽しむときに選びます。
Speaker Setting	スピーカーの様々な設定を調節するときに選びます。

[Sound Effect]と[Speaker Setting]のメニュー項目については、ヘルプガイドをご覧ください。

スピーカーパターンを選ぶ

[Easy Setup]を行わなくても、お使いのスピーカーの配置に合わせて好みのスピーカーパターンを選ぶこともできます。



- 1 AMP MENUを押す。
- 2 ↑/↓ と ⊕ を押して、「<SPKR>」 - 「PATTERN」を順に選ぶ。
- 3 ↑/↓ を押してスピーカーパターンを選び、⊕ を押す。
- 4 ↑/↓ を押して「HEIGHT」を選び、⊕ を押す。
- 5 ↑/↓ を押してスピーカーの種類を選び、⊕ を押す。

ちょっと一言

「ハイトスピーカー」とは、フロントハイスピーカー、トップミドルスピーカー、Dolby Atmosイネーブルドスピーカーの総称です。

スピーカーパターン（「PATTERN」）

スピーカーパターン	フロント左/右スピーカー	センタースピーカー	サラウンド左/右スピーカー	サラウンドバック左スピーカー	サラウンドバック右スピーカー	アクティブサブウーファー	ハイトスピーカー*
「7.1」	○	○	○	○	○	○	—
「7.0」	○	○	○	○	○	—	—
「6.1[SB]」	○	○	○	○	—	○	—
「6.0[SB]」	○	○	○	○	—	—	—
「6.1」	○	—	○	○	○	○	—
「6.0」	○	—	○	○	○	—	—
「5.1.2」	○	○	○	—	—	○	○
「5.0.2」	○	○	○	—	—	—	○
「5.1[SB]」	○	—	○	○	—	○	—
「5.0[SB]」	○	—	○	○	—	—	—
「5.1」	○	○	○	—	—	○	—
「5.0」	○	○	○	—	—	—	—
「4.1.2」	○	—	○	—	—	○	○
「4.0.2」	○	—	○	—	—	—	○

スピーカー カー パターン	フロント 左／右 スピーカー	センター スピーカー	サラウンド 左／右 スピーカー	サラウンド バック左 スピーカー	サラウンド バック右 スピーカー	アクティブ サブウー ファー	ハイト スピーカー *
「4.1」	○	—	○	—	—	○	—
「4.0」	○	—	○	—	—	—	—
「3.1.2」	○	○	—	—	—	○	○
「3.0.2」	○	○	—	—	—	—	○
「3.1」	○	○	—	—	—	○	—
「3.0」	○	○	—	—	—	—	—
「2.1.2」	○	—	—	—	—	○	○
「2.0.2」	○	—	—	—	—	—	○
「2.1」	○	—	—	—	—	○	—
「2.0」	○	—	—	—	—	—	—

—: 未使用

○: 使用

* ハイトスピーカーをつなぐときは、スピーカーパターンを「x.x.2」に設定します。次にスピーカーの種類を選んでください(45ページ)。

ちょっと一言

アクティブサブウーファーをつなぐときは、スピーカーパターンを「x.1」に設定してください。

ハイトスピーカー用のスピーカーの種類(「HEIGHT」)

この設定は、スピーカーパターンをハイトスピーカーのある設定(「x.x.2」)にしているときのみ、ご利用になれます(44ページ)。

スピーカー パターン	サラウンド Dolby Atmos イネーブルド スピーカー (「SRD」)	フロント Dolby Atmos イネーブルド スピーカー (「FD」)	トップミドル スピーカー (「TM」)	フロントハイ スピーカー (「FH」)
「5.1.2」	○	○	○	○
「5.0.2」	○	○	○	○
「4.1.2」	○	○	○	○
「4.0.2」	○	○	○	○
「3.1.2」	—	○	○	—
「3.0.2」	—	○	○	—
「2.1.2」	—	○	○	—
「2.0.2」	—	○	○	—

—: ご利用になれません。

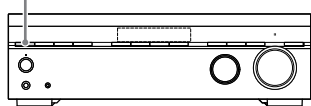
○: ご利用になれます。

フロントスピーカー を切り替える

本機にフロントスピーカーシステムが2組つながっているときは、操作したいフロントスピーカーシステムを選べます。

本体前面のSPEAKERSをくり返し押して、音声を出力するフロントスピーカーシステムを選ぶ。

SPEAKERS



このボタンを押すたびに表示窓の表示は次のとおり切り替わります。

「**SPK A**」: SPEAKERS FRONT A端子に接続されているスピーカーを使用します。

「**SPK B**」*: SPEAKERS SURROUND BACK/HEIGHT(FRONT B/BI-AMP)端子に接続されているスピーカーを使用します。

「**SPK A+B**」*: SPEAKERS FRONT AおよびSPEAKERS SURROUND BACK/HEIGHT(FRONT B/BI-AMP)端子の両方に接続されているスピーカー (パラレル接続)を使用します。

「**OFF SPEAKERS**」: 表示窓に「OFF」および「SPEAKERS」が交互に表示されます。どのスピーカー端子からも音声信号は出力されません。

* [Speaker Setting]メニューで[Surround Back Terminals]が[Front B Speakers]に設定されているときのみ、この設定を選ぶことができます。

ご注意

- ヘッドホンを接続しているときはこの設定はできません。
- 自動音場補正を実行するときは、スピーカー出力を「OFF SPEAKERS」以外に設定してください。

ちょっと一言

どの端子が選ばれているかによって、表示窓の「SP A」、「SP B」のどちらか、または両方のインジケータが点灯します。スピーカーシステムをオフにすると、「SP A」および「SP B」が消えます。

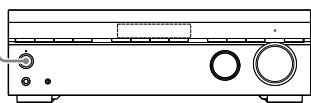
お買い上げ時の設定に戻す

以下の手順に従って、記憶させたすべての設定を消去してお買い上げ時の設定に戻すことができます。

この操作は、必ず本体のボタンを使って行ってください。

- 1 本体前面の ⏻ (電源)を押して、電源を切る。

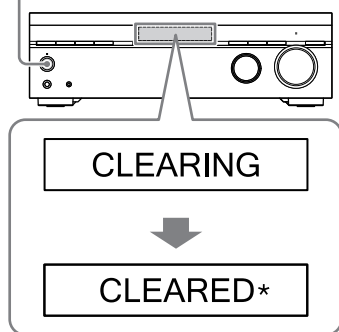
⏻ (電源)



- 2 ⏻ (電源)を5秒間長押しする。

初期化中は、表示窓に「CLEARING」と表示されます。初期化が終了すると、表示窓に「CLEARED*」と表示されます。

⏻ (電源)



ご注意

メモリーが完全に消去されるのに数秒かかることがあります。表示窓に「CLEARED*」が表示されるまで、電源を切らないでください。

消費電力を抑える

以下のとおり設定すると、スタンバイ時の消費電力を抑えられます。

- 「<HDMI>」メニューの「CTRL.HDMI」を「CTRL OFF」にする。
- 「<HDMI>」メニューの「STBY.THRU」を「OFF」にする。
- 「<BT>」メニューの「BT STBY」を「STBY OFF」にする。

困ったときは

本機の使用中に問題が発生したら、修理に出す前に、問題を解決するため以下の確認または対策を行ってください。

- 「困ったときは」の項目にその問題が記載されているかを確認してください。
- ヘルプガイドでキーワードを入力して検索し、問題解決方法が記載されているかを確認してください。

<http://rd1.sony.net/help/ha/strdh79/ja/>

- 音場(サウンドフィールド)をお買い上げ時の設定に戻してください(38ページ)。
- 保存したすべての設定を消去して、お買い上げ時の設定に戻してください(47ページ)。

それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口(裏表紙)にお問い合わせください。

全体

電源が自動的に切れる

- 「AUTO.STBY」が「STBY ON」に設定されているときは、「<SYSTEM>」メニューで「STBY OFF」に設定してください。
- スリープタイマーが働いています。
- 異常が検知されたため、保護回路(「PROTECT」(53ページ))が働いています。

表示窓に表示が出ない

- 本体前面のPURE DIRECTランプが点灯しているときは、PURE DIRECTを押して機能をオフにしてください。
- 本体前面のDIMMERを押して、表示窓で明るさの設定の「BRIGHT」または「DARK」を選んでください。

テレビ音声

本機からテレビの音声が出力されない

- 本機をeARC機能またはARC機能に対応したテレビに接続しているときは、本機がテレビのeARCまたはARC対応のHDMI入力端子に接続されているか確認してください(24、25、26ページ)。テレビのHDMI入力端子に「eARC」または「ARC」の表示があるか確認してください。
- テレビがeARC機能またはARC機能に対応している場合は、テレビのeARC機能またはARC機能がオンになっていることを確認してください。
- テレビがeARC機能またはARC機能に対応している場合は、テレビのHDMI機器制御機能がオンになっていることを確認してください。
- 「<HDMI>」メニューの「CTRL.HDMI」が「CTRL ON」に設定されているか確認してください。
- お使いのテレビがARC機能に対応していない場合は、[<HDMI>]メニューの[EARC]を[OFF]に設定してください。
- お使いのテレビがシステムオーディオコントロールに対応していることを確認してください。テレビ(ブラビア)のスピーカー設定を「オーディオシステム」にしてください。設定のしかたについては、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- お使いのテレビがシステムオーディオコントロールに対応していない場合は、「<HDMI>」メニューの「AUDIO.OUT」を以下のとおり設定してください。
 - 「TV+AMP」: 本機につないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から音を聞きたい場合。
 - 「AMP」: 本機につないだスピーカーのみで音を聞きたい場合。
- それでも音が出ない、または音が途切れる場合は、光デジタル音声ケーブル(別売)を接続し、「<HDMI>」メニューの「CTRL.HDMI」を「CTRL OFF」に設定してください。

- お使いのテレビがeARC機能またはARC機能に対応していない場合は、テレビと本機を光デジタル音声ケーブル(別売)かステレオ音声ケーブル(別売)で接続してください。テレビがeARC機能またはARC機能に対応していない場合は、本機をテレビのHDMI入力端子に接続しても、テレビの音声は本機に接続されたスピーカーから出力されません。
- テレビにつないだ機器から番組を視聴したいときは、必ず視聴したい機器または入力を正しく選んでください。この操作について詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビに接続されたケーブルテレビ(CATV)ボックス／衛星放送チューナーの音声が出ない場合は、それぞれの機器を本機のHDMI入力端子に接続して、本機の入力を接続した機器の入力に切り替えてください(28ページ)。
- テレビと本機の電源を入れる順番によっては、本機が消音状態になり、本体前面の表示窓に「MUTING」と表示される場合があります。その場合は、テレビの電源を入れてから、本機の電源を入れてください。
- 本体前面のMASTER VOLUMEつまみが「VOL MIN」になっていないことを確認してください。
- 本体前面のSPEAKERSを押して、「OFF SPEAKERS」以外の設定を選んでください(46ページ)。
- ヘッドホンの本機につないでいないことを確認してください。
- ㊦(消音)を押して消音機能を解除してください。表示窓の「MUTING」が消えます。
- リモコンの入力切り替え用ボタンを押すか、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して、聞きたい入力を選んでください。
- 本機の保護回路が働いています。本機の電源をオフにして、ショートの問題を解消して、電源をもう一度オンにしてください。

スタンバイ状態時に、本機に接続したHDMI機器からの音声 テレビに出力されない

- 「<HDMI>」メニューの「CTRL.HDMI」を「CTRL ON」に設定後、「STBY.THRU」を「ON」または「AUTO」に設定してください。
- 本機がスタンバイ状態になると、本機の電源をオフにする前に選択していたHDMI機器からの音声出力されます。それ以外の機器のコンテンツを出力したい場合は本機の電源を入れて、再生機器をつないだ入力に切り替えてください。

音声

どの機器を選んでも音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- すべての接続ケーブルが本機、スピーカー、その他の機器の入力／出力端子に確実に接続されているかを確認してください。
- 本機とすべての機器の電源が入っているかを確認してください。

ハム音またはノイズがひどい

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認してください。
- 接続ケーブルがトランスやモーターから離れているか確認してください。
- テレビからオーディオ機器を離してください。
- ブラグや端子が汚れている場合は、アルコールで少し湿らせた布で拭き取ってください。

特定のスピーカーから音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- ヘッドホンがPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認してください。ヘッドホンから1チャンネルのみが出力される場合は、機器が本機に正しく接続されていない可能性があります。本機と機器の端子にすべてのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
- ヘッドホンから両方のチャンネルが出力される場合は、フロントスピーカーが本機に正しく接続されていない可能性があります。音を出力していない方のフロントスピーカーの接続を確認してください。
- お使いの機器の音声をアナログ接続で出力する場合は、左右の音声出力端子(L/R)にケーブルを接続しているか確認してください。アナログ音声出力の接続では、左右両方の端子にケーブルを接続する必要があります。接続には、ステレオ音声ケーブル(別売)をお使いください。

- スピーカーのレベルを調節してください。
- 「<A.CAL>」メニューの「AUTO CAL」または「<SPKR>」メニューの「PATTERN」を使って、スピーカーの設定が適切かどうか確認してください。その後、「<LEVEL>」メニューの「T. TONE」を使って、各スピーカーから正しく音が出力されているか確認してください。
- アクティブサブウーファーが正しく、確実に接続されているか確認してください。
- アクティブサブウーファーの電源が入っているか確認してください。
- 選択した音場(サウンドフィールド)によっては、アクティブサブウーファーから音が出ない場合があります(41、42ページ)。

特定の機器から音が出ない

- 機器が、対応する音声入力端子に正しく接続されているか確認してください。
- 接続に使用されているケーブルが、本機と機器の端子に確実に差し込まれているか確認してください。
- 「<INPUT>」メニューで「IN MODE」の設定を確認してください。
- 機器が、対応するHDMI入力端子に正しく接続されているか確認してください。
- 再生機器によっては、機器側でHDMI設定が必要な場合があります。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 解像度が1080pの映像やDeep Color、4Kまたは3Dの映像を視聴するときは、イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号の場合には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル(イーサネット対応)が必要です。
- テレビ画面にホームメニューが表示されているときは、本機から音声が出られないことがあります。HOMEを押して、ホームメニューを非表示にしてください。

- HDMI端子から伝送された音声信号(フォーマット、サンプリング周波数、ビット長など)は接続機器側で制限されることがあります。HDMIケーブルでつないだ機器からの映像が明瞭でなかったり、音声が出なかったりする場合は、機器の設定を確認してください。
- つないだ機器が著作権保護技術(HDCP)に対応していない場合、本体後面のHDMI TV OUT端子からの映像や音声が入ったり、出力されないことがあります。このような場合は、接続機器の仕様を確認してください。
- High Bitrate Audio (DTS-HD Master Audio、ドルビー TrueHD)を楽しむには、再生機器の映像解像度を720p/1080iより高く設定してください。
- DSDやマルチチャンネルリニアPCMフォーマットの音声を楽しむには、再生機器の映像解像度の設定が必要な場合があります。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機にプロジェクターなどのビデオ機器をつないでいるとき、本機から音が出られない場合があります。この場合は、「<HDMI>」メニューの「AUDIO.OUT」を「AMP」に設定してください。
- 本機でテレビ入力が選ばれているときは、本機につないだ機器の音声を聞くことができません。HDMIケーブルでつないだ機器の番組を視聴したいときは、必ず本機の入力をHDMIに変更してください。
- 選んだデジタル音声入力端子が他の入力に割り当てられていないか確認してください。

左右の音のバランスが悪い、または逆転している

- スピーカーおよび各機器が正しく、確実に接続されているか確認してください。
- [Speaker Setting]メニューの[Level]で、音声レベルのパラメーターを調節してください。

ドルビーデジタルまたはDTSマルチチャンネルの音源が再生できない

- DVDなど再生中のコンテンツの音声は、ドルビーデジタル(Dolby Digital)またはDTS形式で記録されているか確認してください。

- DVDプレーヤーなどの機器を本体後面のデジタル音声入力端子につないでいるときは、機器側のデジタル音声の出力設定が有効になっているか確認してください。
- 「<HDMI>」メニューの「AUDIO.OUT」を「AMP」に設定してください。
- オブジェクトベースの音声(Dolby Atmos、DTS:X)や、High Bitrate Audio(DTS-HD Master Audio、ドルビー TrueHD)は、HDMI接続でのみ楽しめます。
- お使いの機器にデジタル音声出力設定がある場合は、設定がPCMになっていないことを確認してください。

サラウンド効果が得られない

- コンテンツに応じて適切なサウンドフィールドが選ばれていることを確認してください。サウンドフィールドについて詳しくは、「選べるサウンドフィールドとその効果」(39ページ)をご覧ください。
- スピーカーパターンが「2.0」または「2.1」のときは、Dolby SurroundおよびNeural:Xは働きません。

本機がスタンバイモードのとき、テレビに映像と音声が出ない

- 「<HDMI>」メニューの「CTRL.HDMI」を「CTRL ON」に設定後、「STBY.THUR」を「ON」または「AUTO」に設定してください。
- 本機の電源を入れて、再生機器をつないだ入力に切り替えてください。
- ソニー製以外のHDMI機器制御機能に対応している機器をつないでいる場合には、「<HDMI>」メニューの「CTRL.HDMI」を「CTRL ON」に設定してください。

本機につないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から音が出る

- 本機またはテレビを消音状態にしてください。
- 「<HDMI>」メニューの「AUDIO.OUT」を「AMP」に設定してください。

テレビの映像と本機につないだスピーカーからの音声がずれる。

- AMP MENUを押して「<AUDIO>」メニューの「A/V SYNC」の設定を変更してください。

- テレビ側でAVシンクの設定を行ってください。詳しくはテレビの取扱説明書を参照してください。

映像

テレビ画面に映像が表示されない

- リモコンの入力切り替え用ボタンを押すか、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して、視聴したい入力を選んでください。
- お使いのテレビを正しい入力に切り替えてください。
- ケーブルが正しく、しっかりと機器に接続されているか確認してください。
- 本機とテレビをつないでいるHDMIケーブルを本機、テレビ両方から抜き、接続し直してください。
- 「<HDMI>」メニューで、選ばれている入力の「SIG. FMT.」を「STANDARD」に設定してください。
- 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 解像度が1080pの映像やDeep Color、4Kまたは3Dの映像を視聴するときは、イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。
4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号の場合には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル(イーサネット対応)が必要です。
- HDCP 2.2のコンテンツを再生する場合は、本機をテレビのHDCP 2.2対応のHDMI入力端子に接続してください。

テレビ画面に3Dコンテンツが表示されない

- テレビまたはビデオ機器によっては、3Dコンテンツが表示されない場合があります。本機対応の3D HDMI映像フォーマットについて詳しくは、ヘルプガイドをご覧ください。
- 必ずイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。

テレビ画面に4Kコンテンツが表示されない

- テレビまたはビデオ機器によっては、4Kコンテンツが表示されない場合があります。お使いのテレビとビデオ機器の対応映像フォーマットおよび設定を確認してください。
- 4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅の映像信号を伝送する場合は、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル(イーサネット対応)が必要です。それ以外の映像信号の場合には、イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブル以上のグレードのHDMIケーブルをお使いください。
- お使いのテレビによっては、HDMI信号フォーマットに関わる設定項目が用意されている場合があります。本機の「<HDMI>」メニューで「SIG. FMT.」を「ENHANCED」(34ページ)に設定したときは、テレビ側も適切な設定になっているか確認してください。テレビ側のメニュー設定については、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機は、必ず4K対応のテレビのHDMI入力端子につないでください。4K解像度のコンテンツを再生するには、HDMIケーブルを再生機器のHDCP 2.2対応のHDMI出力端子につなぐ必要があります。

スタンバイ状態時に本機に接続したHDMI機器からの映像がテレビに出力されない

- 「<HDMI>」メニューの「CTRL.HDMI」を「CTRL ON」に設定後、「STBY.THUR」を「ON」または「AUTO」に設定してください。
- 本機がスタンバイ状態になると、本機の電源をオフにする前に選択していたHDMI機器からの映像が出力されます。それ以外の機器のコンテンツを出力したい場合は本機の電源を入れて、再生機器をつないだ入力に切り替えてください。

テレビ画面にホームメニューが表示されない

- 本機とテレビをつないでいるHDMIケーブルを本機、テレビ両方から抜き、接続し直してください。

- テレビ側の入力为正しく選ばれているか確認してください。本機を接続しているHDMI入力を選んでください。
- HOMEを押してホームメニューを表示させてください。
- テレビによっては、ホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。

HDR (High Dynamic Range) コンテンツがHDRのまま表示されない

- テレビまたはビデオ機器によっては、HDRコンテンツがHDRのまま表示されない場合があります。お使いのテレビとビデオ機器のビデオ性能および設定を確認してください。
- テレビとビデオ機器の両方がHDRおよび18 Gbpsの帯域幅に対応していても、本機で選ばれている入力の「SIG. FMT.」が「STANDARD」に設定されていると、ビデオ機器によってはHDRコンテンツをHDRのまま出力できない場合があります。その場合は、「<HDMI>」メニューで、選ばれている入力の「SIG.FMT.」を「ENHANCED」に設定してください。「ENHANCED」を選んだ場合は、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル(イーサネット対応)をお使いください。

FMラジオ

FM放送の受信状態が悪い

- FMアンテナ線を伸ばし、受信状態が良くなるように位置を調節してください。
- FMアンテナ線を窓のそばに設置してください。
- FMアンテナ線は、できるだけ水平になるように設置してください。

放送局が受信できない

- アンテナがしっかりと接続されているか確認してください。必要に応じてアンテナを調節してください。
- 放送局の信号が弱いため、自動選局で受信できません。ダイレクト選局モードで周波数を合わせてください。

- プリセット登録された放送局がない、またはプリセット登録した放送局が消去されています(プリセットした放送局をスキャンして受信している場合)。放送局をプリセット登録してください。
- 周波数が表示窓に表示されるまで、DISPLAYをくり返し押してください。

BLUETOOTH機器

ペアリングができない

- BLUETOOTH機器を本機に近付けてください。
- 他のBLUETOOTH機器が本機の周りにあると、ペアリングができないことがあります。この場合は、他のBLUETOOTH機器の電源を切ってください。
- ペアリング操作の過程でパスキーの入力を求められたときは、「0000」を入力してください。

BLUETOOTH接続ができない

- 接続しようとしているBLUETOOTH機器がA2DPプロファイルに対応していない場合は、本機とつながることができません。
- BLUETOOTHを押してください。前回つないだBLUETOOTH機器につながります。
- BLUETOOTH機器のBLUETOOTH機能をオンにしてください。
- BLUETOOTH機器側から接続を確立してください。
- ペアリング登録情報が消去されています。もう一度ペアリングを行ってください。
- 本機とBLUETOOTH機器が接続しているときは、他のBLUETOOTH機器で本機は検出されません。
- 一度BLUETOOTH機器にあるBLUETOOTH機器のペアリング登録情報を消去し、もう一度ペアリングを行ってください。

音が途切れたり変動したりする、または接続が切れる

- BLUETOOTH機器を本機に近付けてください。
- 本機とBLUETOOTH機器の間に障害物がある場合は、障害物を移動させるか、本機とBLUETOOTH機器のいずれかまたは両方を障害物の影響がない位置に移動してください。

- 無線LAN、他のBLUETOOTH機器、電子レンジのような電磁波を放出する機器が本機の近くにある場合は、それらを遠ざけてください。

BLUETOOTH機器からの音声が届かない

- まずBLUETOOTH機器の音量を上げてから、リモコンの◀+ (または本体前面のMASTER VOLUMEつまみ) を使って音量を調節してください。

ハム音またはノイズがひどい

- 本機とBLUETOOTH機器の間に障害物がある場合は、障害物を移動させるか、本機とBLUETOOTH機器のいずれかまたは両方を障害物の影響がない位置に移動してください。
- 無線LAN、他のBLUETOOTH機器、電子レンジのような電磁波を放出する機器が本機の近くにある場合は、それらを遠ざけてください。
- つないだBLUETOOTH機器の音量を下げてください。

リモコン

リモコンで操作できない

- リモコンを本体前面のリモコン受光部に向けて操作してください。
- リモコンと本機の間に障害物を取り除いてください。
- リモコンの乾電池が消耗している場合は、2本とも新しい乾電池に交換してください。

エラーメッセージ

表示窓に「PROTECT」と表示された

数秒後に本機の電源が自動的に切れます。以下を確認してください。

- 電源コードを抜いて30分放置し、本機の温度を下げてから、以下の対策を行ってください。
- すべてのスピーカーとアクティブサブウーファアのケーブルを抜く。
- スピーカーの芯線の先端がしっかりねじられていることを確認してください。
- 本機が何かで覆われていないか、通気孔がふさがれていないか確認してください。

- 接続されているスピーカーの適合インピーダンスが、本体後面に表示されているインピーダンスの範囲内であることを確認してください。
- まずフロントスピーカーをつなぎ、電源コードをつないで本機の電源を入れる。音量レベルを上げ、本機の温度が上がるまで少なくとも30分間操作する。そのあと、他のスピーカーを1台ずつつないで各スピーカーをテストし、どのスピーカーがプロテクションエラーの原因になっているかを確認してください。

以上の項目を確認して問題に対処したら、電源コードをつないで本機の電源を入れてください。それでも問題が解決しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口(裏表紙)にお問い合わせください。

表示窓に「USB FAIL」と表示された

POWER SUPPLYポートからの過電流が検出されました。本機の電源をオフにして、USB機器を取りはずして、電源をもう一度オンにしてください。

自動音場補正測定後のメッセージ

[Error 30:]

ヘッドホンが挿入されています。ヘッドホンをはずして再測定してください。

[Error 31:]

フロントスピーカーの選択が正しくないようです。本体前面のSPEAKERSを押してフロントスピーカーを正しく選び、音が出る状態にして再測定してください。フロントスピーカーの選択について詳しくは、「フロントスピーカーを切り替える」(46ページ)をご覧ください。

[Error 32:], [Error 33: F], [Error 33: S], [Error 33: SBL], [Error 33: HT]

- 左か右どちらか、または両方のスピーカーから音が検出されませんでした。
 - 左か右どちらか、または両方のフロントスピーカーから音が検出されませんでした。測定用マイクが破損していないか、本体前面のCALIBRATION MIC端子にマイクがつながっているか、すべてのスピーカーが正しく接続されているかを確認してください。
 - 左か右どちらかのサラウンドスピーカーから音が検出されませんでした。サラウンドスピーカーをSURROUND端子につないでください。
 - サラウンドバックスピーカーがSURROUND BACK/HEIGHT R端子にのみつながっています。サラウンドバックスピーカーを1つだけつなぐときは、SURROUND BACK/HEIGHT L端子につないでください。
 - ハイトスピーカーが片方しか検出されませんでした。両方のハイトスピーカーがSURROUND BACK/HEIGHT端子につながっているかを確認してください。
- どのスピーカーからも音声が出されません。測定用マイクが破損していないか、測定用マイクのプラグが本体前面のCALIBRATION MIC端子に奥までしっかり挿入されているかを確認してください。

[Error 35: FL], [Error 35: FR], [Error 35: SL], [Error 35: SR], [Error 35: FC], [Error 35: SW], [Error 35: SBL], [Error 35: SBR], [Error 35: SB], [Error 35: HTL], [Error 35: HTR]

スピーカーパターンの設定と測定結果が一致していないか、騒音のレベルが高いです。スピーカーパターンと接続を確認して、周囲が静かな状態で再測定してください。

[Warning 40:]

測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。

[Warning 41:]、[Warning 42:]

測定用マイクからの入力が過大です。スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎる可能性があります。測定用マイクをお好みの視聴位置に設置して、自動音場補正をもう一度行ってください。

[Warning 43:]

アクティブサブウーファースの距離・位置が測定できませんでした。アクティブサブウーファースを確認して、周囲が静かな状態で再測定してください。

使用上のご注意

安全について

万一、内部に水や異物が入ったときは、すぐに使用を中止し、本機の電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店または修理相談窓口にご相談ください。

電源について

- ご使用前に、本機の動作電圧が地域の使用電圧と同じであることを確かめてください。
動作電圧は本体後面の銘板に表示されています。
- 長期間本機を使用しない場合は、必ず本機の電源コードを壁のコンセントから抜いてください。
電源コードを壁のコンセントから抜く場合は、絶対にコードを引っ張らず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードは正規のサービス店以外で交換しないでください。

温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。特に、大音量で使用し続けると、本体のキャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因となります。

設置について

- 電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。また、本機を以下のような所には置かないでください。
 - － ぐらついた台の上や不安定な場所
 - － じゅうたんや布団の上
 - － 湿気の多い所、風通しの悪い所
 - － ほこりの多い所
 - － 密閉された所
 - － 直射日光が当たる所、温度が高い所
 - － 極端に寒い所
 - － テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所
(テレビやビデオデッキ、カセットデッキと
いっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナの使用時に起こりやすくなります。)
- 特殊な塗装(ワックス、油脂、溶剤など)がされた床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残ることがありますのでご注意ください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。



窓を閉めたり、ヘッドホンを使ったりするなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

操作について

他の機器をつなぐ前に、必ず本機の電源を切り、電源コードを抜いてください。

お手入れのしかたについて

キャビネットおよびパネル面、ボタンの汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。研磨パッド、クレンザー、ベンジンやアルコールなどの溶媒は使わないでください。

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること



下記の注意事項を守らないと**火災・感電により死亡や大けが**の原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

→ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。



湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。

→ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないで下さい。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

→ 内部の点検および修理はソニーの相談窓口またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご依頼ください。



雷が鳴りだしたら、本体やアンテナ線、電源プラグに触れない

感電の原因となります。



本機を日本国外で使わない

交流100 Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用する、火災・感電の原因となります。



ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。



困ったときは／仕様



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり**周辺の 家財に損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにご注意ください。

→ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。



禁止

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。特に、雑音の少ないデジタル機器をヘッドホンで聞くときにはご注意ください。



禁止

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落下してけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も十分に確認してください。



禁止

コード類は正しく配置する

電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。十分に注意して接続、配置してください。



禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

設置上のご注意

本機の角でけがなどをしないように、お気をつけください。



指示

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



禁止

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止



高温注意

この表示がある製品表面はさわらないでください。高温のため、やけどをするおそれがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱によるけがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、数時間たってから症状が現れることもあります。



接触禁止

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



指示

⚠ 警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く



禁止

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

- 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない、火のそばや直射日光のあたるところなど高温の場所で使用・保管・放置しない



禁止

破裂したり、液が漏れたりして、けがやけどの原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない



禁止

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがやけどの原因となることがあります。

＋と－の向きを正しく入れる



指示

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがやけどの原因となることがあります。

- 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す



指示

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがやけどの原因となることがあります。

困ったときは／仕様

主な仕様

アンプ部

スピーカー適合インピーダンス

6 Ω ~ 16 Ω

実用最大出力

ステレオ出力時(6 Ω、JEITA)：

145 W + 145 W

サウンド出力時(6 Ω、JEITA、非同時駆動)：

フロント：145 W + 145 W

センター：145 W

サラウンド：145 W + 145 W

サラウンドバック：145 W + 145 W

高調波ひずみ率

0.09%以下

(6 Ω 負荷、90 W + 90 W、20 Hz ~ 20 kHz)

周波数特性

アナログ

10 Hz ~ 100 kHz、+0.5/-2 dB

(サウンドフィールド、イコライザーバイパス時)

入力

アナログ

感度：500 mV/50 kΩ

SN比¹⁾：105 dB (A²⁾、500 mV³⁾)

デジタル(同軸)

インピーダンス：75 Ω

SN比：100 dB (A²⁾、20 kHz LPF)

デジタル(光)

SN比：100 dB (A²⁾、20 kHz LPF)

出力(アナログ)

SUBWOOFER

電圧：2 V/1 kΩ

イコライザー

ゲインレベル

±10 dB、1 dBステップ

¹⁾ INPUT SHORT (サウンドフィールド、イコライザーバイパス時)

²⁾ 聴感補正フィルタ

³⁾ 入力レベル

FMチューナー部

受信範囲

76.0 MHz ~ 108.0 MHz (100 kHzステップ)

アンテナ

FMアンテナ線

アンテナ端子

75 Ω、不平衡

HDMI映像部

解像度

- 480p/60 Hz
- 576p/50 Hz
- 720p/60 Hz、50 Hz、30 Hz、24 Hz
- 1080i/60 Hz、50 Hz
- 1080p/60 Hz、50 Hz、30 Hz、25 Hz、24 Hz
- 4K/60 Hz、50 Hz、30 Hz、25 Hz、24 Hz

対応

HDCP 2.2、HDR (HDR10、Hybrid Log-Gamma、Dolby Vision)、3D、Deep Color、ITU-R BT.2020、eARC/ARC

電源部

POWER SUPPLYポート

DC 5 V 1 A (最大)

BLUETOOTH部

通信方式

BLUETOOTH標準規格4.2

出力

BLUETOOTH標準規格Power Class 1

最大通信距離

見通し距離、約30 m¹⁾

使用周波数帯域

2.4 GHz帯域

変調方法

FHSS (Freq Hopping Spread Spectrum)

対応BLUETOOTHプロファイル²⁾

A2DP 1.2 (Advanced Audio Distribution Profile)

AVRCP 1.6 (Audio Video Remote Control Profile)

対応コーデック³⁾

SBC⁴⁾、AAC

対応コンテンツプロテクション

SCMS-T方式

送信範囲 (A2DP)

20 Hz ~ 20,000 Hz (サンプリング周波数
44.1 kHz)

¹⁾ 通信距離は目安です。使用環境により変わります。

²⁾ BLUETOOTH標準プロファイルは機器間の
BLUETOOTH通信のためのものです。

³⁾ コーデック：音声信号の圧縮、変換のフォーマット
です。

⁴⁾ Subband Codecの略です。

一般

電力規定

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

240 W

スタンバイ時：0.3 W

(「CTRL.HDMI」が「CTRL OFF」、 「STBY.
THRU」が「OFF」、かつ「BT STBY」が「STBY
OFF」に設定されているとき)

BLUETOOTHスタンバイ時：0.5 W

(「BT STBY」が「STBY ON」、 「CTRL.HDMI」
が「CTRL OFF」、かつ「STBY.THURU」が
「OFF」に設定されているとき)

寸法(幅／高さ／奥行き) (約)

430 mm × 133 mm × 297 mm
(最大突起部を含む)

質量(約)

7.5 kg

仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2適合品」です。

商標について

本機はドルビー[®]1) デジタルサウンド、
DTS²⁾ デジタルサウンドシステムを搭載し
ています。

¹⁾ ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき
製造されています。Dolby、ドルビー、Dolby
Atmos、Dolby Audio、Dolby Vision、"AAC"
ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリー
ズの商標です。

²⁾ DTSの特許については下記をご覧ください。
<http://patents.dts.com>
DTS社からの実施権に基づき製造されています。
DTS、シンボル、DTSとシンボルの組み合わせ、
DTS:XおよびDTS:Xロゴは米国およびその他の
国におけるDTS社の登録商標または商標です。
© DTS, Inc. All Rights Reserved.

本機は、High-Definition Multimedia
Interface (HDMI[®]) 技術を搭載しています。
HDMI、High-Definition Multimedia
Interface、およびHDMIロゴは、米国およびそ
の他の国におけるHDMI Licensing
Administrator, Inc. の商標または、登録商標
です。

"ブラビアリンク" および "BRAVIA Link"
ロゴはソニー株式会社の登録商標です。

"PlayStation"は株式会社ソニー・インタラ
クティブエンタテインメントの登録商標ま
たは商標です。

"ウォークマン[®]"、"WALKMAN[®]"、
"WALKMAN[®]" ロゴは、ソニー株式会社の登
録商標です。

BLUETOOTH[®]のワードマークおよびロゴは、
Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標で
あり、ソニー株式会社はこれらのマークをラ
イセンスに基づいて使用しています。その
他の商標およびトレードネームは、それぞ
れの所有者に帰属します。

その他すべての商標および登録商標は各社
の所有物です。本文中では、[™]、[®]マークは
明記していません。

BLUETOOTH無線技術について

BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロフィール

プロフィールとは、BLUETOOTHの特性ごとに機能を標準化したものです。本機が対応するBLUETOOTHバージョンとプロフィールについては「主な仕様」の「BLUETOOTH部」をご覧ください(60ページ)。

通信有効範囲

見通し距離で約10 m以内で使用してください。以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- 無線LANが構築されている場所
- 電子レンジを使用中の周辺
- その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN (IEEE 802.11b/g/n) 機器は同一周波数帯 (2.4 GHz) を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺でBLUETOOTH機器を使用すると、電波干渉が発生し、通信速度その他の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- 本機を無線LAN機器から10 m以上離して使う。
- BLUETOOTH機器を10 m以内で使用する場合は、無線LAN機器の電源を切る。
- 本機とBLUETOOTH機器をできる限り近付けて置く。

他機器への影響

BLUETOOTH機器が発する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- 本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティーが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と同じプロフィールを持つすべてのBLUETOOTH機器とのBLUETOOTH通信を保証するものではありません。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIG, Inc. の定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。



この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は80 mです。

本機についてご質問や問題がある場合は、ソニーの相談窓口へお問い合わせください。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

本取扱説明書またはヘルプガイドの「困ったときは」の項目をご覧ください。故障かどうかを点検してください。

それでも具合が悪いときは相談窓口へ

ソニーの相談窓口（裏表紙）へご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。

ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。

その際、交換した部品は回収させていただきます。

再生対応フォーマット

対応しているデジタル音声フォーマット

デコードできるデジタル音声フォーマットは、接続機器のデジタル音声出力端子によって異なります。以下の音声フォーマットに対応しています。

デジタル音声フォーマット	最大デコードチャンネル数	本機との接続
ドルビーデジタル(「DD」)	5.1	同軸デジタル音声／ 光デジタル音声、HDMI、 eARC、ARC
ドルビーデジタルプラス(「DD+」) ¹⁾	7.1	HDMI、eARC、ARC
ドルビー TrueHD(「DTHD」) ¹⁾	7.1	HDMI、eARC
Dolby Atmos – ドルビーデジタルプラス (「ATMOS」) ^{1), 2)}	5.1.2または7.1	HDMI、eARC、ARC
Dolby Atmos – ドルビー TrueHD (「ATMOS」) ^{1), 2)}	5.1.2または7.1	HDMI、eARC
DTS(「DTS」)	5.1	同軸デジタル音声／ 光デジタル音声、HDMI、 eARC、ARC
DTS-ES Discrete(「DTSES.DSC」)	6.1	同軸デジタル音声／ 光デジタル音声、HDMI、 eARC、ARC
DTS-ES Matrix(「DTSES.MTX」)	6.1	同軸デジタル音声／ 光デジタル音声、HDMI、 eARC、ARC
DTS 96/24(「DTS 9624」)	5.1	同軸デジタル音声／ 光デジタル音声、HDMI、 eARC、ARC
DTS-HD High Resolution Audio (「DTS HD HR」) ¹⁾	7.1	HDMI、eARC
DTS-HD Master Audio(「DTS HD MA」) ¹⁾	7.1	HDMI、eARC
DTS:X(「DTS-X」) ¹⁾	5.1.2または7.1	HDMI、eARC
DTS:X Master Audio(「DTS-X MA」) ¹⁾	5.1.2または7.1	HDMI、eARC
DTS Express(「DTS EXP」)	7.1	HDMI、eARC
DSD(「DSD」) ¹⁾	5.1	HDMI
マルチチャンネルリニアPCM(「PCM」) ¹⁾	7.1	HDMI、eARC
MPEG-2 AAC(LC)(「MPEG-2 A」) ¹⁾	5.1	同軸デジタル音声／ 光デジタル音声、HDMI、 eARC、ARC

¹⁾ 再生機器が上記のフォーマットに対応していない場合は、音声信号は別のフォーマットで出力されます。
詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

²⁾ スピーカーパターンを「2.0」、「2.1」、「3.0」、「3.1」、「4.0」、「4.1」、「5.0」、「5.1」のいずれかに設定している場合、
Dolby Atmosはドルビーデジタルプラスまたはドルビー TrueHDとしてデコードされます。

索引

数字

2.1チャンネル 22
2ch Stereo (2chステレオ) 39
4K 24
5.1チャンネル 16、20、21
5.1.2チャンネル 18、19
7.1チャンネル 17

あ

アクティブサブウーファー 12
エラーメッセージ 53
オーディオフォーマット 64
音響効果 38
音場 38
リセット 38

か

画面
かんたん設定 (Easy Setup) 31
ホームメニュー 43
かんたん設定 (Easy Setup) 30
ケーブル 15
言語 31
工場出荷時の設定 47

さ

再生 35
BLUETOOTH 36
対応フォーマット 64
サウンドフィールド 38
リセット 38
サラウンドバックスピーカー 17
自動音場補正 31
消費電力 47、61
初期化
音場 38
本機 47
スピーカー
ケーブル 15
パターン 44

接続

AV機器 28
FMアンテナ 30
スピーカー 15
テレビ 23
センタースピーカー 12

た

同梱品 4
トップミドルスピーカー 18

な

ナイトモード 6、10

は

バイアンプ接続 21
ピュアダレクト 7、10
表示窓 8
フロントBスピーカー 20
フロントスピーカー 46
ペアリング 36
ヘルプガイド 4
ホームメニュー 43
本体
後面 9
前面 6
表示窓 8

ま

マルチチャンネル音声 16
メッセージ 53
メニュー
ホーム 43

ら

リセット
音場 38
本機 47
リモコン 10
電池 11

A-Z

ARC 24、25、26、34、48、64

Audio Enhancer (オーディオ
エンハンサー) 39

Audio Return Channel 5

Auto Format Decoding 39

BLUETOOTH

再生 36

バージョン 60

プロファイル 60

ペアリング 36

BT.2020 23

Deep Color 23

Direct (ダイレクト) 39

Dolby Atmosイネーブルドスピーカー 19

Dolby Surround 39

eARC 24、25、26、34、48、64

Enhanced Audio Return Channel 5

FMラジオ 35

Front Surround (フロントサラウンド) 22、
39

HDMI信号フォーマット 34

HDCP 2.2 24

HDMI 23

HDR 23

Headphone(2ch) (ヘッドホン(2ch)) 40

Multi Ch Stereo (マルチチャンネル
ステレオ) 39

Neural-X 39

NIGHT MODE 6、10

OPTIONS 43

PURE DIRECT 7、10

サポート情報について

本機の最新情報については、以下のホームページをご覧ください。

<https://www.sony.jp/support/audio/>

「Q&A」ホームページ

お客様からよくあるお問い合わせと解決方法に関する情報を、以下のホームページで確認できます。

<https://www.sony.jp/support/faq.html>

型名 : STR-DH790

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

<https://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル…………… **0120-333-020**
携帯電話・PHS・一部のIP電話… **050-3754-9577**

修理相談窓口

フリーダイヤル…………… **0120-222-330**
携帯電話・PHS・一部のIP電話… **050-3754-9599**

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX(共通) 0120-333-389

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつながします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1



HDMI



* 4 7 2 6 9 0 5 0 2 * (1)